



USER'S MANUAL

3ポート ワイヤレスブロードバンド ルータ

BLW-03

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

USER'S MANUAL

3ポート ワイヤレスブロードバンド ルータ

BLW-03

本製品を安全にお使いいただくために

警告

本製品をご利用の際は、以下の注意点を必ずお守りください。これらの事項が守られない場合、感電、火災、故障などにより使用者の重傷または死亡につながるおそれがあります。

分解・改造・修理はダメ！

各部のネジを外したり、カバーを開けたりしないでください。また製品内部の部品を改造・交換しないでください。感電や火災につながるおそれがあります。



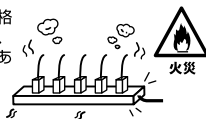
正しい電圧で使用して！

指定の電圧以外で使用すると誤動作や火災につながるおそれがあります。



タコ足配線・無理な配線はダメ！

コンセントや電源タップの定格を超えて電気製品を接続すると、発熱し火災につながる危険があります。



液体・異物はいれないで！

製品内部に液体や異物が入ると、ショートして火災が発生したり、誤動作したりする可能性があります。万一異物や液体が入ってしまった場合は、電源コードをコンセントから外して弊社サポートセンターまでご連絡ください。



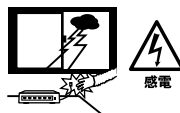
設置・保管場所をもう一度確認して！

以下の場所での本製品のご利用や保管は避けてください。これらの場所で設置・保管を行うと誤動作や感電、火災につながる危険があります。

- ・本製品が落下する可能性のある不安定な場所
- ・高温または多湿の場所（暖房器具の側も含む）
- ・急激に温度変化する可能性のある場所（結露のおそれがある所）
- ・静電気を帯びやすい場所（絨毯の上も含む）
- ・腐食性のガスが発生する場所

雷のときはさわらないで！

雷が発生している間は、製品各部およびケーブルにさわらないでください。感電するおそれがあります。



通気口をふさがないで！

内部に熱がこもり、誤動作や火災につながるおそれがあります。



電源コードをつけて移動しないで！

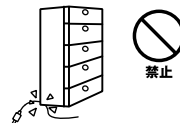
本製品を設置・移動する際は、必ず電源コードを前もって抜いておいてください。電源コードを入れたまま移動し、コードが傷つくと誤動作や火災につながるおそれがあります。



電源コードは傷つけないで！

火災・感電につながるおそれがありますので、電源やACアダプタのコードは絶対に加工したり傷つけたりしないでください。また以下の点を守ってコードを傷めないようにしてください。

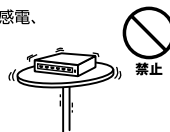
- ◇コードの上に物を載せない
- ◇熱源の側にコードを置かない
- ◇コードをかじる癖のあるペットは隔離する（かじった部分からショートし発火する危険があります）



◎おねがい

本製品のお手入れ

- ・本製品のお手入れは乾いた柔らかい布で行ってください。
- ・汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤に布を浸し、かたく絞って本製品を拭いてください。また最後に乾いた布で軽く拭いてください。
- ・台所用中性洗剤以外は使わないでください。シンナーやベンジン、ワックス、アルコールが入ったものは使用できません。



このマニュアルの構成

本マニュアルは3ポート・ワイヤレスブロードバンドルーター bRoad Lanner BLW-03の概要および使用方法について説明します。本マニュアルの構成は以下のようになっています。

必ずお読みください

第1章 はじめに

本製品の概要と各部の名称について説明します。必ずお読みください。

ご使用方法

第2章 ハードウェアの接続

本製品ハードウェアのADSL/ケーブルモデムおよびLANとの接続方法について説明します。必ずお読みください。

第3章 簡単設定

本製品をWebブラウザから設定するためのコンピュータの設定方法について説明します。

第4章 ワイヤレスLANアクセスポイント

本製品を使って最も簡単にインターネットに接続する方法について説明します。

第5章 詳細設定

本製品のDHCPサーバ機能やローカルサーバ機能等のより詳しい機能の設定の方法について説明します。

付録

付録A トラブルシューティング

「トラブルかな?」と思われる場合の対応方法について説明します。

付録B デフォルト設定

本製品の工場出荷時のデフォルト設定について説明します。

付録C 仕様

本製品の製品仕様です。

マニュアル内の表記について

本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。

記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

目次

本製品を安全にお使いいただくために	2
-------------------	---

第1章 はじめに

1.概要	7
2.特長	8
3.梱包内容の確認	8
4.各部の名称	9
5.対応機器	12
6.設定の初期化	13
7.リセットスイッチ	13

第2章 ハードウェアの接続

1.設置場所について	15
2.設置	16
3.無線LANカードの取り付け	17
4.WAN側ポートにxDSL/ケーブルモデムを接続する	18
5.LAN側ポートの接続	19
6.電源の接続	20
7.接続の確認	21

第3章 簡単設定

1.コンピュータの設定	23
2.WAN側ポート接続の設定	29
3.接続の確認	39

第4章 ワイヤレスLANアクセスポイント

1.ワイヤレスLANアクセスポイントについて	41
2.ワイヤレスLANクライアントの設定	42

第5章 詳細設定

1.設定画面を開く	51
2.管理者パスワードの設定	53
3.インターネット（WAN側）からの設定の許可	54
4.LANポートのIPアドレスの設定	55
5.WANポートの設定	56
6.ワイヤレス設定	60
7.DHCPサーバ機能の設定	63
8.特定アプリケーション	65
9.ローカルサーバ機能	67
10.ユーザ設定ローカルサーバ	69
11.バーチャルコンピュータ機能（DMZ）	71
12.フィルタ設定	72
13.ルーティングテーブル	75
14.ステータス表示	77
15.NAT機能の設定	81
16.その他の設定	82
付属A トラブルシューティング	83
付属B デフォルト設定	85
付属C 仕様	87

はじめに

1 概要

本製品は、xDSL およびCATV(ケーブルTV)接続を使用したインターネット接続に対応したインターネットシェアリングボックスです。NAT/IPマスカレード(NAPT)機能により、1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有し、同時にインターネットにアクセスすることが可能です。本製品は無線LANカードを装備しており、無線アクセスポイントとしても使用可能です。本製品はWEBブラウザにより、簡単にセットアップすることが可能です。

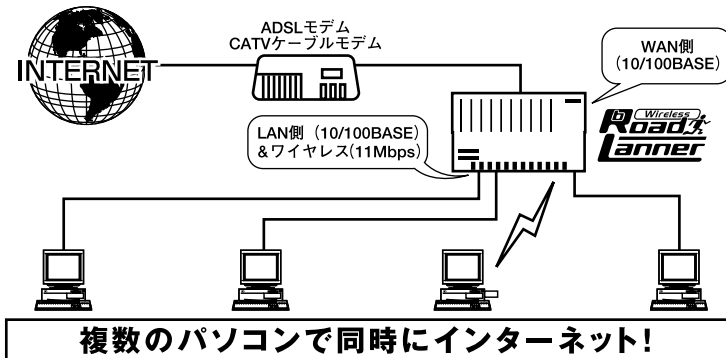


図1-1 bRoad Lanner接続図



注意

プロバイダによっては本製品のようなルータの使用や複数のコンピュータからのアクセスを制限している場合があります。プロバイダとのご契約内容についてご確認ください。

2 特長

xDSL、CATV接続等のWAN 回線に対応

NAT/IPマスカレード機能により1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有可能

WAN 側に100BASE-TX/10BASE-T 自動認識に対応したRJ-45 STPポートを1ポート装備

LAN 側に100BASE-TX/10BASE-T自動認識に対応したRJ-45 STP ポートを3ポート装備

有線ポートは全ポートAuto MDI/MDI-Xに対応。ストレート/クロスケーブルを自動認識

無線LANカードを装備、11Mbps無線アクセスポイントとして使用可能

無線部はWEPおよびMACアドレスフィルタによるセキュリティに対応

WAN 側ポートはDHCPクライアントに対応

LAN 側ポートはDHCPサーバに対応(最大253クライアントまで割り当て可能)

ローカルサーバ機能およびバーチャルコンピュータ機能により、ローカルネットワーク上のコンピュータにインターネットからアクセス可能

フィルタ機能を装備、IPアドレス、ポート番号によるアクセス制限が可能

WAN 側の接続方法として通常の接続のほかにPPPoE 接続に対応

WEB ブラウザから設定可能

3 梱包内容の確認

パッケージに以下の付属品が含まれていることを確認してください。

BLW-03 本体

無線LANカード

ACアダプタ

UTPストレートケーブル(1m)1本

ショートケーブル1本

このユーザーズマニュアル

保証書

不足品がある場合は、販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

4 各部の名称

本体上面

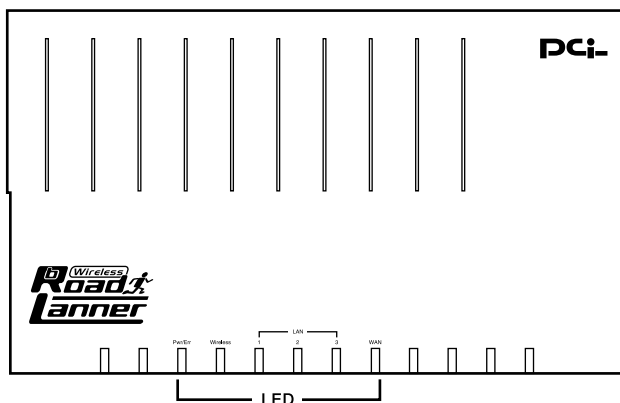


図1-2 BLW-03本体上面

「Pwr/Err LED」

本製品に電源が供給されている場合に緑色に点灯します。また、本製品の起動時および、何らかの異常が発生した場合に赤色に点灯します。

「WAN LED」

WAN 側ポートのリンクが10Mで確立しているときにオレンジ色に点灯します。WAN 側ポートのリンクが100Mで確立しているときに緑色に点灯します。また、WAN 側ポートでデータの送受信中は点滅します。

「LAN LED」

LAN側ポートのリンクが10Mで確立しているときにオレンジ色に点灯します。LAN側ポートのリンクが100Mで確立しているときに緑色に点灯します。また、LAN側ポートでデータの送受信中は点滅します。

「Wireless LED」

無線LANカードが正常に動作しているときに点灯します。また、無線LANカードがデータの送受信中は点滅します。

本体背面

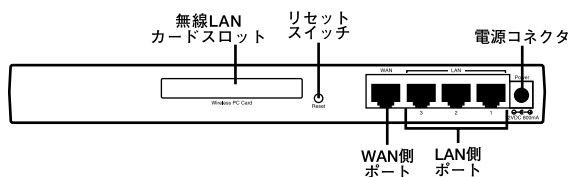


図1-3 BLW-03本体背面

「WAN 側ポート」

本製品をxDSLまたはケーブルモデムと接続するためのRJ-45STPポートです。

「LAN 側ポート」

本製品にコンピュータを直接接続するためのRJ-45 STP ポートです。

「リセットスイッチ」

本製品を再起動する場合および、本製品の設定の初期化時に使用します。設定の初期化の方法については、第1章「6.設定の初期化」を参照してください。

「無線LAN カードスロット」

本製品に無線LAN カードを取り付けるためのスロットです。付属の無線LAN カード以外のPC カードは取り付けないでください。

「電源コネクタ」

付属のAC アダプタを接続するための電源コネクタです。

**注意**

無線LAN カードの取り付けおよび取り外しは、必ず本製品の電源を切った状態で行ってください。また、付属の無線LAN カード以外は使用しないでください。

本体裏面

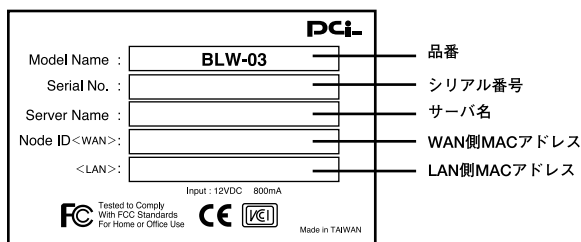


図1-4 BLW-03本体裏面

「品番」

本製品の製品型番です。

「シリアル番号」

本製品のシリアルナンバーです。製品外箱に記載されているものと同じ番号です。ユーザ登録時に必要となります。また、製品故障時などにサポートを受ける場合にも必要となります。

「サーバ名」

本製品のデバイス名です。デフォルトのホスト名になります。

「LAN 側MAC アドレス」

本製品のLAN 側ポートのMAC アドレス(物理アドレス)です。

「WAN 側MAC アドレス」

本製品のWAN 側ポートのMAC アドレス(物理アドレス)です。プロバイダによってはxDSL/ケーブルモデムに接続する機器のMAC アドレスの申請が必要な場合があります。その場合はこのWAN 側ポートのMAC アドレスをプロバイダに申請してください。

5 対応機器

コンピュータ機器

本製品は、以下のいずれかのコンピュータに対応しています。

イーサネット(有線)通信を使用する場合

Windows 95/98/Me、Windows NT、Windows 2000、Windows XPを搭載し、Ethernet (RJ-45)ポートを装備したコンピュータ

TCP/IPが利用可能なOS (Mac OS、各種UNIX 等)を搭載し、Ethernet (RJ-45)ポートを装備したコンピュータ

ワイヤレス(無線)通信を使用する場合

Windows 95/98/Me、Windows NT、Windows 2000、Windows XPを搭載し、IEEE802.11/IEEE802.11b に準拠した無線LANカードもしくは無線LAN 通信機能を装備したコンピュータ

AirMac 無線LANカードを装備したMacintosh コンピュータ

ネットワーク機器

本製品では、以下のネットワーク機器が必要となります。

UTP またはSTP ツイストペアケーブル

xDSL/ケーブルモデム

本製品は、以下のいずれかのxDSL/ケーブルモデムに対応しています。

RJ-45(LAN)ポートを装備した外付xDSL モデム

RJ-45(LAN)ポートを装備した外付ケーブルモデム

6 設定の初期化

IPアドレスやパスワードを忘れてしまった場合や、間違った設定をしてしまい設定画面にアクセスできなくなった場合等に設定の初期化が必要になることがあります。



注意

設定の初期化を行うと、LAN 側/WAN 側ポートの設定やワイヤレス設定、フィルタ設定等すべての設定が初期化されます。初期化を実行する前に、本当に初期化を行っても問題がないかを確認してください。

本製品の設定の初期化は、以下の手順で行ってください。

1. 本製品の電源を切ってください。
2. 本製品背面のリセットスイッチを押したまま、電源を入れてください。
3. Pwr/Err LEDが赤色に2回点滅するまで、リセットスイッチを押し続けてください。
4. リセットスイッチを離してください。本製品のすべての設定が初期化されます。

7 リセットスイッチ

本製品背面にはリセットスイッチが装備されています。動作中に何らかの理由で本製品のリセットを行いたい場合は、本製品背面のリセットスイッチを押してください。

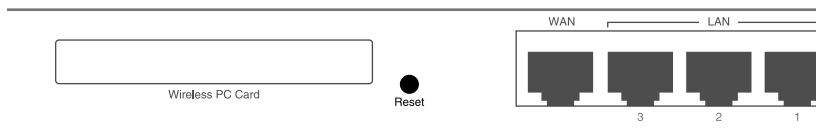


図1-5 リセットスイッチ

ハードウェアの接続

本

章では、本製品とADSL/ケーブルモデム、コンピュータとの接続手順について説明します。

1 設置場所について

本製品を設置する際には必ず以下の点をお守りくださいますようお願いいたします。

湿気の多い場所に設置しないでください。

チリやほこりの多い場所には設置しないでください。

直射日光のあたる場所や温度の高い場所には設置しないでください。

内部に熱がこもる原因となりますので、周囲にはなるべく空間を空けてください。



注意

通風口にほこりなどがたまると内部に熱がこもる原因となります。定期的な点検を行い、ほこりがたまっているようでしたら掃除機等でほこりを取り除くようにしてください。

ワイレスLAN はケーブルの配線や工事等が必要ないため誰でも簡単に使用することが可能ですが、設置場所または通信したい端末との間に以下の物質を使用した遮蔽物がある場合は、転送速度の低下あるいは通信出来ないなどの問題が生じます。安定した通信を行うには、出来る限りこれらの環境要因を避けて設置してください。

本章では、本製品とxDSL/ケーブルモデム、ハブとの接続手順について説明します。

環境要因	転送距離への影響 (*が多いほど、影響が大きいことを表します。)	具体例
空気	*	—
石材	**	木材の仕切り
石膏	**	仕切り壁
合成素材	**	ベニヤ板の仕切り
アスベスト	**	天井
ガラス	**	窓ガラス
水	**	湿った木材
煉瓦	**	煉瓦壁
大理石	**	石壁
セメント コンクリート	**	床、壁
防弾ガラス	**	哨舎
鉄	**	鉄の仕切り 強化コンクリート壁

表2-1 遮蔽物の素材について

2 設置

本製品は、デスクトップ上などの平らな場所に設置して使用して下さい。

3 無線LAN カードの取り付け

1. 本製品の電源が切れていることを確認してください。
2. 本製品背面の無線LAN カードスロットに付属の無線LAN カードを取り付けてください。

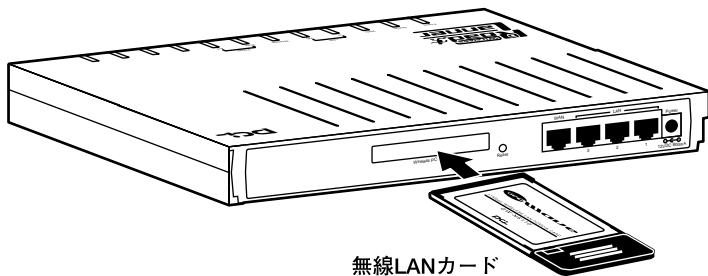


図2-1 無線LAN カードの取り付け



注意

無線LAN カードは必ず付属のものを使用してください。付属以外の無線LAN カードの使用は、製品の故障、誤動作等の原因となります。付属以外の無線LAN カードを使用した場合の故障は保証の範囲外となります。

4 WAN側ポートにxDSL/ケーブルモデムを接続する

1. xDSL/ケーブルモデムの電源を切ってください。
2. ストレートタイプのUTPまたはSTP ツイストペアケーブルで、本製品背面のWAN側ポートとxDSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートを接続してください。

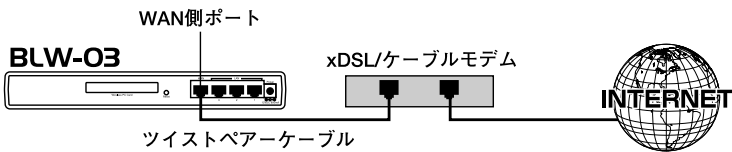


図2-2 xDSL/ケーブルモデムとの接続

5 LAN 側ポートの接続

1. ストレートタイプのUTP またはSTP ツイストペアケーブルの一端を本製品のLAN 側ポートに接続してください。
2. ツイストペアケーブルのもう一端をコンピュータのRJ-45 ポートに接続してください。

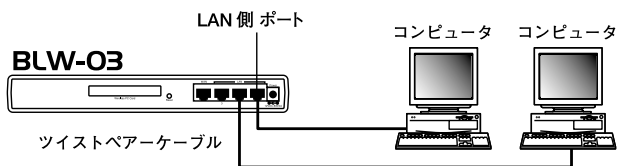


図2-3 コンピュータを接続

6 電源の接続

2

ハードウェアの接続

1. xDSL/ケーブルモデムおよびハブの電源を入れてください。
2. 付属のACアダプタを本製品の電源コネクタに接続してください。
3. ACアダプタをAC100Vコンセントに接続してください。スペースの問題でコンセントに直接、ACアダプタを接続できない場合は付属のショートケーブルをご使用ください。
4. コンピュータの電源を入れてください。



図2-4 電源の接続



注意

ACアダプタは必ず付属のものを使用してください。付属以外のACアダプタの使用は、製品の故障、誤動作等の原因となります。付属以外のACアダプタを使用した場合は保証の範囲外となります。

7 接続の確認

これまでの接続を行い本製品の電源を入れると本製品のPwr/Err、WAN、LAN、Wirelessの各LEDが点灯します。

これらのLEDが点灯しない場合は以下の点についてご確認ください。

Pwr/Err LED

- ・本製品付属のACアダプタを使用していますか？
- ・ACアダプタが本製品背面の電源コネクタにしっかりと接続されていますか？
- ・ACアダプタはAC100V コンセントにしっかりと接続されていますか？

WAN LED

- ・ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のWAN側ポートおよびxDSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- ・xDSL/ケーブルモデムの電源は入っていますか？

LAN LED

- ・ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のLAN側ポートおよびハブまたはコンピュータのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- ・コンピュータの電源は入っていますか？

Wireless LED

- ・無線LANカードはしっかりと挿さっていますか？
- ・本製品付属の無線LANカードを使用していますか？

2

ハードウェアの接続

簡単設定

本

章では本製品の簡単設定手順について説明します。簡単設定では、必要最小限の設定のみで、本製品を経由したインターネットへのアクセスを行えるようにします。簡単設定を開始する前に、第2章「ハードウェアの接続」を参照して本製品とxDSL/ケーブルモデム、コンピュータの接続を済ませておいてください。本製品のより詳細な設定を行う場合は、第5章「詳細設定」を参照してください。

1 コンピュータの設定

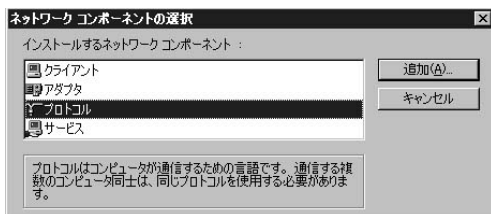
Windows 95/98

1. コンピュータにネットワークアダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確認してください。ネットワークアダプタがインストールされていない場合は、ネットワークアダプタのインストールを行ってください。

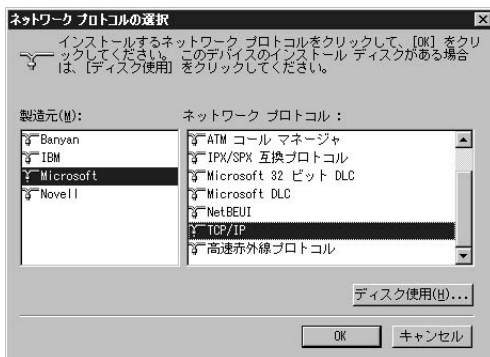
2. コンピュータにTCP/IP プロトコルがインストールされていることを確認します。「スタート」メニューから「設定」「コントロールパネル」「ネットワーク」と選択してください。「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP」が表示されているか確認してください。インストールされている場合は手順5に進んでください。



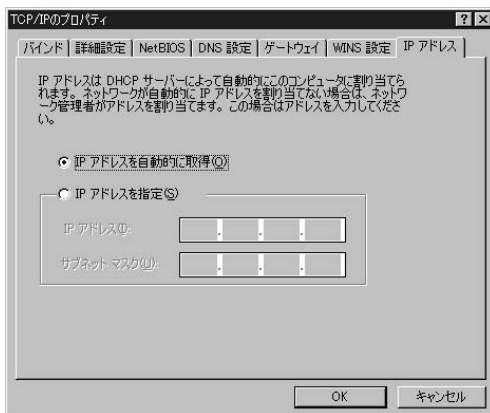
3. インストールされていない場合は「追加」ボタンをクリックし、「インストールするネットワークコンポーネント」から「プロトコル」を選択して「追加」ボタンをクリックしてください。



4. ネットワークプロトコルの選択で「製造元」に「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」には「TCP/IP」を選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ネットワークのプロパティの画面に戻ります。



5. 「TCP/IP」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックしてください。「TCP/IPのプロパティ」画面が表示されるので、「IP アドレス」タブをクリックしてください。画面内の「IP アドレスを自動的に取得」オプションを選択し、コンピュータを再起動してください。



Windows XP

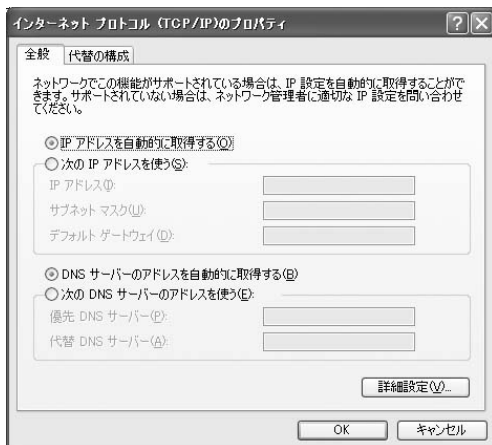
1. コンピュータにLANアダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確認してください。LANアダプタがインストールされていない場合は、LANアダプタのインストールを行ってください。
2. コンピュータでTCP/IPプロトコルが有効になっていることを確認します。「スタート」メニューを開き、「マイコンピュータ」を選択してください。表示された「マイコンピュータ」ウィンドウの左側の「その他」の中にある「マイネットワーク」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択してください。「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。



3. 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」を選択してください。「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。「この接続は次の項目を使用します」の欄の「インターネットプロトコル(TCP/IP)」の左側のチェックボックスがチェックされているか確認してください。チェックされていない場合はチェックしてください。



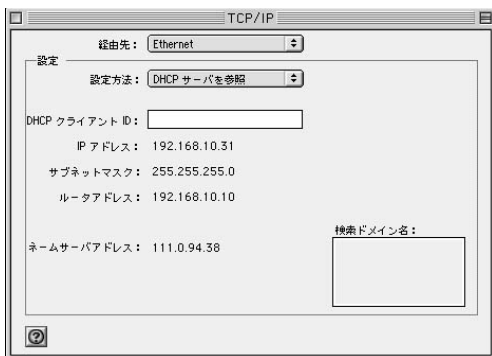
4. 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックしてください。「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が表示されるので、「全般」タブをクリックしてください。画面内の「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバのアドレスを自動的に取得する」のオプションを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。



5. 「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウに戻ったら、「閉じる」ボタンをクリックしてください。

Macintosh

1. アップルメニューから「コントロールパネル」「TCP/IP」と選択してください。
2. TCP/IP の設定ウィンドウの「設定方法」を「DHCP サーバを参照」に設定してください。



3. TCP/IP の設定ウィンドウを閉じて、Macintosh を再起動してください。

2 WAN側ポートの接続の設定

コンピュータの準備ができたら、本製品のWAN 側ポートの接続の設定を行います。

WAN 側ポートの接続の方法には、「通常の接続」と「PPPoE接続」の2種類があります。プロバイダがPPPoE接続に対応している場合は35ページの「PPPoE 接続の設定」を、それ以外の場合は29ページの「通常の接続の設定」を参照してWAN 側ポートの設定を行ってください。



注意

WEB ブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape またはMicrosoft Internet Explorer のバージョン4.0 以降のご使用を推奨します。

また、ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorer では「表示（ツール）」、「インターネットオプション」、「接続」、「LAN の設定」、Netscape では「編集」、「設定」、「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン（アドレス）にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIP アドレスを入力してください。

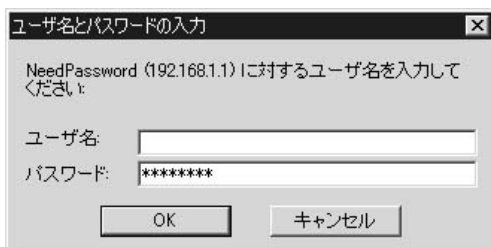
通常の接続の設定

通常の接続の場合、プロバイダからのIPアドレスの割り当てには、固定のIPアドレスが提供される場合と、接続時にDHCPサーバから自動的にIPアドレスが割り当てられる場合があります。

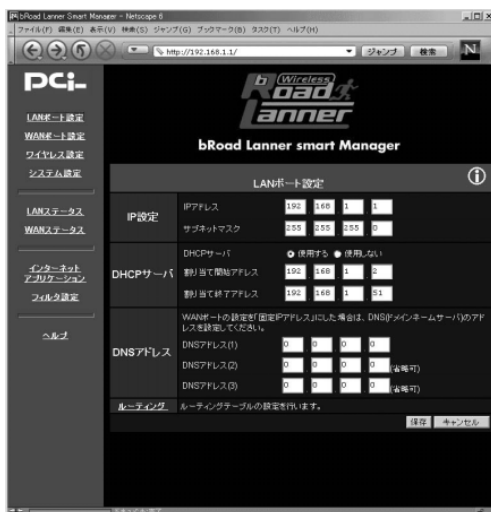
IP アドレスがDHCPサーバにより自動的に割り当てられる場合
プロバイダから特にIPアドレスの指定がなく、IP アドレスを自動的に取得するよう指定されている場合は、通常は何も設定する必要はありません。ただし、プロバイダによっては、ホスト名やドメイン名が指定されている場合があります。この場合は以下の手順でホスト名、ドメイン名の設定を行ってください。

ホスト名、ドメイン名の指定がない場合は、第3章「3.接続の確認」に進んでください。

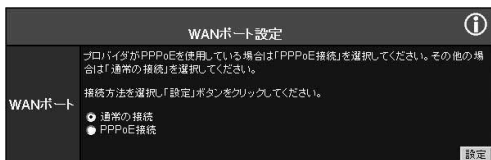
1. コンピュータが起動したら、WEB ブラウザを起動してください。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄(Netscapeでは「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」)に本製品のデフォルトIP アドレス「192.168.1.1」を入力し、Enter キーを押してください。
3. 本製品にログインするための認証ダイアログボックスが表示されます。ユーザ名は空欄のまま、デフォルトのパスワード「password」を入力して「OK」ボタンをクリックしてください。



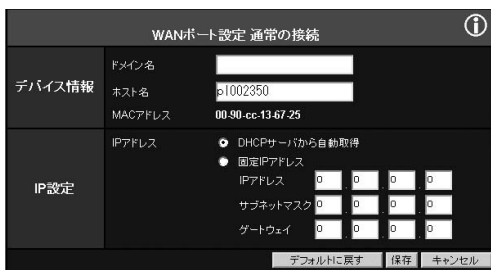
4. 本製品の設定画面が表示されます。



5. 画面左にあるメニュー内の「WANポート設定」をクリックしてください。「WANポート設定」画面が表示されたら、「通常の接続」を選択して「設定」ボタンをクリックしてください。



6. 「WANポート設定通常の接続」画面が表示されます。「デバイス情報」内の「ドメイン名」と「ホスト名」をプロバイダから指定されたものに変更してください。指定されていない項目についてはデフォルト値のままにしておいてください。



7. 「保存」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。
8. 「ドメイン名」を設定した場合は、設定を反映させるため、コンピュータを再起動するか、IP設定の再取得を行ってください。

固定のIP アドレスが割り当てられる場合

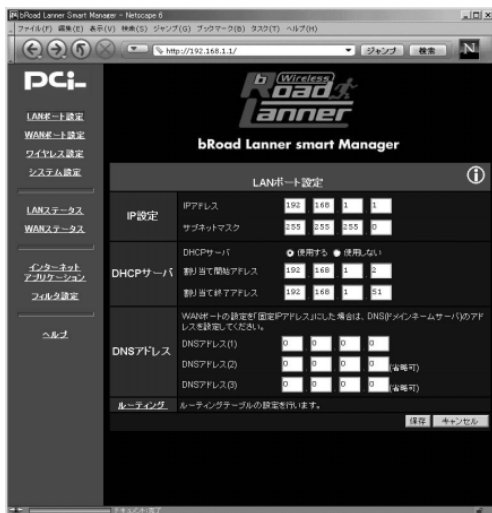
プロバイダから固定のIP アドレスが割り当てられている場合は、以下の情報を用意してWAN 側ポートの設定を行ってください。

- a. プロバイダから割り当てられているIP アドレス
- b. プロバイダから割り当てられているサブネットマスク
- c. プロバイダから割り当てられているゲートウェイIP アドレス
- d. DNS (ドメインネームサーバ)のIP アドレス
- e. ドメイン名(指定されている場合)
- f. ホスト名(指定されている場合)

1. コンピュータが起動したら、WEB ブラウザを起動してください。
2. WEB ブラウザのURL を入力する欄(Netscape では「場所」、Internet Explorer では「アドレス」)に本製品のデフォルトIP アドレス「192.168.1.1」を入力し、Enter キーを押してください。
3. 本製品にログインするための認証ダイアログボックスが表示されます。ユーザ名は空欄のまま、デフォルトのパスワード「password」を入力して「OK」ボタンをクリックしてください。



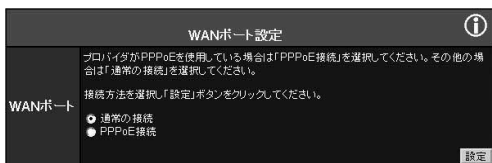
4. 本製品の設定画面が表示されます。



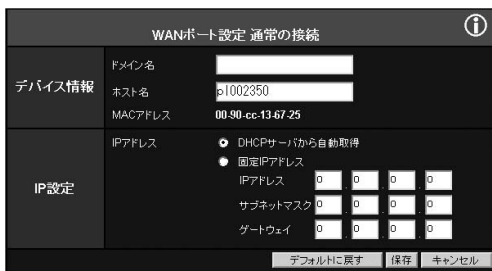
3

簡単設定

5. 画面左にあるメニュー内の「WAN ポート設定」をクリックしてください。「WAN ポート設定」画面が表示されたら、「通常の接続」を選択して「設定」ボタンをクリックしてください。



6. 「WAN ポート設定通常の接続」画面が表示されます。IP アドレスで「固定IPアドレス」を選択し、次の項目を手動で設定してください。



「IP アドレス」

プロバイダから指定されたIP アドレスを入力してください。

「サブネットマスク」

プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力してください。

「ゲートウェイ」

プロバイダから指定されたデフォルトゲートウェイのIP アドレスを入力してください。

「ドメイン名」

プロバイダから指定されている場合は、指定されたドメイン名を入力してください。

「ホスト名」

プロバイダから指定されている場合は、指定されたホスト名を入力してください。

7. 「保存」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。

8. 画面左のメニューから「LANポート設定」を選択してください。

「LANポート設定」画面が表示されるので、「DNS アドレス(1)」にプロバイダから指定されたDNS (ドメインネームサーバ)のアドレスを入力してください。2 つ以上のDNSアドレスが指定されている場合は「DNSアドレス(2)」、「DNS アドレス(3)」も入力してください。

LANポート設定					
IP設定	IPアドレス	192	168	1	1
	サブネットマスク	255	255	255	0
DHCPサーバ	DHCPサーバ	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない			
	割り当て開始アドレス	192	168	1	2
	割り当て終了アドレス	192	168	1	51
DNSアドレス	WANポートの設定が「固定IPアドレス」にした場合は、DNS(ドメインネームサーバ)のアドレスを設定してください。				
	DNSアドレス(1)	192	168	100	10
	DNSアドレス(2)	192	168	100	11 (省略可)
	DNSアドレス(3)	0	0	0	0 (省略可)
ルーティング	ルーティングテーブルの設定を行います。				
		保存 キャンセル			

9. 「保存」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。

10. 設定を反映させるため、コンピュータを再起動するか、IP 設定の再取得を行ってください。

PPPoE 接続の設定

PPPoE (Point to Point Protocol over Ethernet)とは、ダイヤルアップ接続で一般的に用いられているPPP (Point to Point Protocol)接続をEthernet上で実現する方式です。通常、インターネット常時接続ではネットワーク設定に関する技術的な知識を必要としますが、PPPoE接続では、基本的にユーザー名とパスワードの設定だけで簡単にインターネットに接続できます。ただし、ダイヤルアップ接続でのPPPと違い、コンピュータにPPPoE接続のための専用のソフトウェア(NTTや各プロバイダから提供予定)をインストールする必要があります。また、通常、1つの契約(1セッション)には1個のIP アドレスしか割り当てられないため、1台のコンピュータしかインターネットに接続できません。

本製品のPPPoE接続機能を使用すると本製品自身がPPPoEクライアントとしてプロバイダとのPPPoEセッションを確立するので、コンピュータにPPPoE 接続ソフトウェアをインストールする必要はありません。

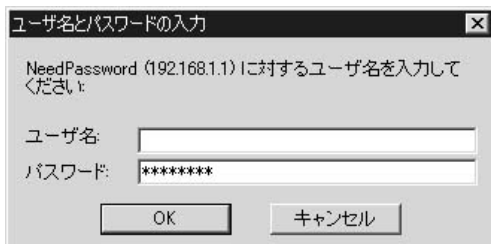
プロバイダへの接続はコンピュータからインターネットへの接続要求が発生した場合に、本製品が自動的に行います。また、インターネット側との通信が設定した時間(分単位)なかった場合自動的に接続を切断します。

さらに、NAT/IPマスカレード機能により、1台分の契約で、複数のコンピュータから同時にインターネット接続が可能です。

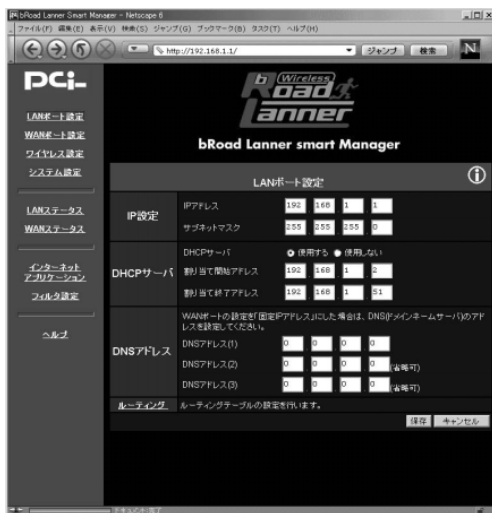
設定手順

1. コンピュータが起動したら、WEB ブラウザを起動してください。
2. WEBブラウザのURL を入力する欄(Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」)に本製品のIP アドレス(デフォルト値は「192.168.1.1」)を入力し、Enterキーを押してください。

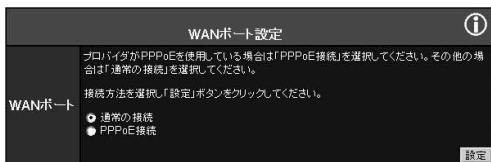
3. 本製品にログインするための認証ダイアログボックスが表示されます。ユーザ名は空欄のまま、デフォルトのパスワード「password」を入力して「OK」ボタンをクリックしてください。



4. 本製品の設定画面が表示されます。



5. 画面左にあるメニュー内の「WANポート設定」をクリックしてください。「WANポート設定」画面が表示されたら、「PPPoE接続」を選択して「設定」ボタンをクリックしてください。



6. PPPoE 接続の設定画面が表示されます。

WANポート設定 PPPoE接続	
ログイン情報	ユーザ名(アカウント名) <input type="text" value="guest"/>
	パスワード <input type="password"/>
	パスワードの確認 <input type="password"/>
IP設定	IPアドレス <input type="radio"/> 自動取得 <input type="radio"/> 固定IPアドレス <input type="text" value="0"/> <input type="text" value="0"/> <input type="text" value="0"/> <input type="text" value="0"/>
オプション	自動切断までの時間 <input type="text" value="15"/> 分
	自動接続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効にする <small>自動接続を無効にした場合、接続を行うには「WANステータス」画面の「接続」ボタンを使用してください。</small>
保存 キャンセル	

7. 以下の項目を設定してください。

「ユーザ名 (アカウント名)」

プロバイダから指定されたPPPoE 接続のユーザ名(アカウント名)を入力してください。

「パスワード」

プロバイダから指定されたPPPoE 接続のパスワードを入力してください。

「パスワードの確認」

確認のためパスワードをもう一度入力してください。

「サービス名」

プロバイダによってはPPPoE 接続のサービス名が指定される場合があります。この場合は指定されたサービス名を入力してください。サービス名の指定がない場合は空白のままでもかまいません。

「IPアドレス」

プロバイダから固定IPアドレスの指定がない場合は「自動取得」を選択してください。PPPoE接続の際にIPアドレスを自動取得します。プロバイダから固定のIPアドレスが指定されている場合は「固定IPアドレス」を選択し、指定されたIPアドレスを入力してください。

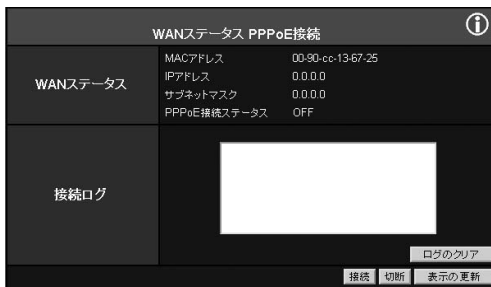
「自動切断までの時間」

ここで設定した時間、インターネットへの通信がない状態が続くとPPPoE接続を自動切断します。自動切断を行わない場合は“0”を設定してください。設定できる値は0-99(分)です。

「自動接続」

「有効にする」をチェックすると、LAN側ネットワークからインターネット側への通信が発生したときに自動でPPPoE接続を行います。通常は有効にしておくことを推奨します。無効にした場合、PPPoEの接続を行うには、「WANステータス」画面の「接続」ボタンをクリックして手動で接続を行ってください。

8. 設定が終了したら「保存」ボタンをクリックしてください。
9. PPPoEの接続の確認を行います。メニューから「WAN ステータス」を選択してください。



10. 「接続」ボタンをクリックしてください。“ PPPoE 接続に成功しました ”というメッセージが表示され、PPPoE接続ステータスが“ ON ”になれば接続は成功です。PPPoE接続が成功しない場合は、ユーザ名、パスワード等の設定に間違いがないか確認してください。また、第5章「14.ステータス表示」を参照して“ PPPoE 接続ログ ”の内容も確認してください。
11. 設定を反映させるため、コンピュータを再起動するか、IP設定の再取得を行ってください。

プロバイダから配布されるPPPoE 接続ソフトウェアについて

本製品のPPPoE 接続の設定後はコンピュータにPPPoE 接続ソフトをインストールする必要はありません。インストールしてある場合は、アンインストールするか、そのソフトの自動接続機能を無効にしてください。

3 接続の確認

コンピュータ上でWEB ブラウザを起動し、任意のURLを入力し、ページが表示されるか確認してください。表示されない場合は、プロバイダから指定されている設定をよく確認して、もう一度「簡単設定」をやり直してください。それでも接続できない場合は、「付録A.トラブルシューティング」を参照してください。

注意プロバイダによっては、インターネットに接続できる機器をMACアドレスにより管理している場合があります。このような場合は本製品の裏面に記載されているMACアドレスをプロバイダに登録しなおしてください。MACアドレスによる管理を行っているかどうか、また、MACアドレスの登録変更の方法についてはご契約先のプロバイダに確認してください。

3

簡単設定

ワイヤレスLANアクセスポイント

1 ワイヤレスLAN アクセスポイントについて

本製品は、ワイヤレスLAN ネットワークと既存のイーサネットネットワークを接続するためのアクセスポイントとしても機能します。

本製品を使用することで既存のイーサネットネットワーク資産を利用したワイヤレスLAN ネットワークをシームレスに構築することが可能です。

本製品はIEEE802.11 およびIEEE802.11b に準拠し伝送速度は、11Mbps/5.5Mbps/2Mbps/1Mbps に対応しています。ローミング機能により端末がサービスセット間を移動してもアクセスポイントを再認識させること無く使用可能です。またESSID やWEP などの機能を使用する事により堅牢なセキュリティを保つことができます。

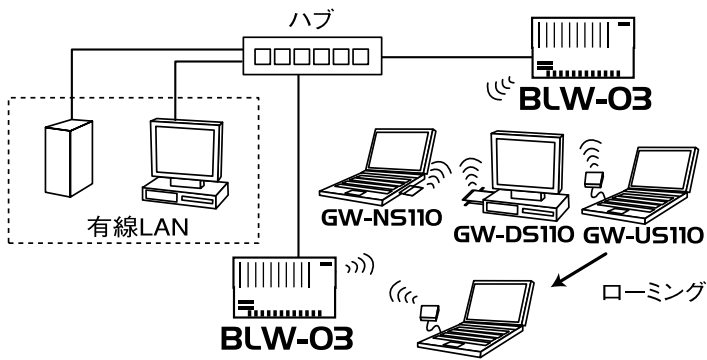


図4-1 ワイヤレスLAN構築例

2 ワイヤレスLAN クライアントの設定

本製品にはIEEE802.11bに準拠したほとんどのワイヤレスLANカードがアクセスすることが可能です。ここではWindows 98/98 Second Edition/Me上で、弊社製品GW-NS110/NS110PXを使用した場合を例にとって、アクセスポイントにアクセスする場合の設定方法を説明します。GW-NS110/NS110PXのインストールについてはそれぞれのマニュアルを参照してください。

WEPを使用しない場合の設定

1. 本製品のワイヤレスの設定を第5章「6.ワイヤレス設定」を参照して下記のように設定してください。設定変更後、[保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

項目	設定	説明
「ESS-ID」	default	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。 同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。 任意の文字列を入れる事が出来ます。 ここでは例としてこの値を用いています。
「WEP設定」	WEPを使用しない	WEPによる暗号化を行いません。
「ステーション設定」	アクセスポイントを有効にする	各ステーションからアクセスポイントとして通信できるようにします。
「アクセス権の設定」	すべてチェックマーク	各ステーションにアクセス制限をかけずに通信します。

表4-1 WEPを使用しない場合の設定

ワイヤレス設定

一般設定	周波数ドメイン	ARIB (Japan) domain
	ステーション名	p1002300
	ESS-ID	default
	チャンネル	3

WEP設定	<input type="radio"/> WEPを使用しない <input checked="" type="radio"/> 40ビット暗号化WEPを使用する																	
	デフォルトキー	1																
	キー 1	00 00 00 00 00 00																
	キー 2	00 00 00 00 00 00																
	キー 3	00 00 00 00 00 00																
キー 4	00 00 00 00 00 00																	
<input type="radio"/> 104ビット暗号化WEPを使用する		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>00</td><td>00</td><td>00</td><td>00</td><td>00</td><td>00</td><td>00</td><td>00</td></tr> <tr><td>00</td><td>00</td><td>00</td><td>00</td><td>00</td><td>00</td><td>00</td><td>00</td></tr> </table>	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
00	00	00	00	00	00	00	00											
00	00	00	00	00	00	00	00											

ステーション設定	<input checked="" type="checkbox"/> アクセスポイントを有効化する	
	ステーションリスト	<input type="text"/> <input type="button" value="削除"/>
	新しいステーション	<input type="text"/> <input type="button" value="追加"/>
	アクセス権の設定 リスト内のステーション <input checked="" type="checkbox"/> インターネットへのアクセスを許可する <input checked="" type="checkbox"/> LANへのアクセスを許可する リストにないステーション <input checked="" type="checkbox"/> インターネットへのアクセスを許可する <input checked="" type="checkbox"/> LANへのアクセスを許可する	
<input type="button" value="保存"/> <input type="button" value="キャンセル"/>		

2. GW-NS110/NS110PX をインストールしたコンピュータから、[スタートメニュー] [プログラム] [GeoWave] [GeoWave Wireless LAN Utility] を選択してください。GW NS110/NS110PXの設定ユーティリティーが起動します。

GeoWave Wireless LAN Utility

GW-NS110情報

ワイヤレスLANアダプタ: GeoWave/GW-NS110/NS110PX Wireless LAN Card

ファームウェア バージョン: 0.7.6 周波数ドメイン: ARIB

MACアドレス: 00:90:0C:0E:13:3A 使用中のチャンネル: 14

接続先BSS: No Connection 現在の転送速度: 2Mbps

ESS ID:

ワイヤレスネットワーク設定

診断ツール

3. [ネットワーク設定] ボタンをクリックしてください。ネットワーク設定ウィンドウが表示されます。

4. 各項目を下記の通りに設定します。

項目	設定	説明
[ESS-ID]	default	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。任意の文字列を入れる事が出来ます。ここでは例としてこの値を用いています。
[ネットワークタイプ]	インフラストラクチャ	アクセスポイントを利用して通信するモードです。
[WEP使用]	WEPを無効にする	WEPによる暗号化を行いません。

表4-2 ネットワーク各項目設定



5. [変更] ボタンをクリックしてください。[終了] ボタンをクリックして、ユーティリティーを終了させてください。

以上でWEPを使用しない場合の設定は完了です。コンピュータから本製品のLAN側ポートに“ ping ” コマンドを実行する等して通信が来ているか確認してください。

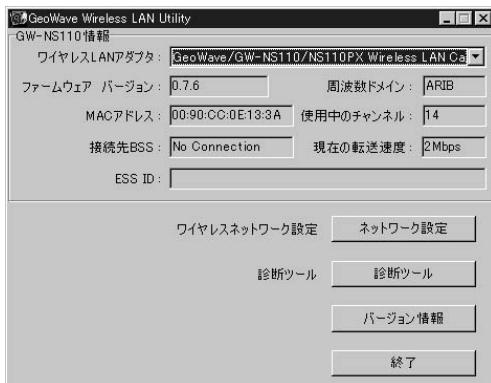
WEP を使用する場合の設定

1. 本製品のワイヤレスの設定を第5章「6.ワイヤレス設定」を参照して下記のように設定してください。設定変更後、[保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

項目	設定	説明
「ESS-ID」	default	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。任意の文字列を入れる事が出来ます。ここでは例としてこの値を用いています。
「WEP設定」	40bit暗号化WEPを使用する	WEPを使用します。GW-NS110/110PXは40bit暗号化に対応していますので40bit暗号化でWEPを設定します。
「デフォルトキー」	1	通常使用するキーを選択します。40bit暗号化では4つまでのキーを登録できます。
「キー」	11 11 11 11 11	暗号化するキーを設定します。キーは16進数(0~F)の10桁で設定します。WEPを使用する場合は同じキーに設定した機器同士でのみ通信できます。ここでは例としてこの値を用いています。
「ステーション設定」	アクセスポイントを有効にする	各ステーションからアクセスポイントとして通信できるようにします。
「アクセス権の設定」	すべてチェックマーク	各ステーションにアクセス制限をかけずに通信します。

表4-3 WEPを使用する場合の設定

2. GW-NS110/NS110PX をインストールしたコンピュータから、[スタートメニュー] [プログラム] [GeoWave] [GeoWave Wireless LAN Utility] を選択してください。GW NS110/NS110PX の設定ユーティリティーが起動します。



3. [ネットワーク設定] ボタンをクリックしてください。ネットワーク設定ウィンドウが表示されます。



4. 各項目を下記の通りに設定します。

項目	設定	説明
「ESS-ID」	default	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。任意の文字列を入れる事が出来ます。
「ネットワークタイプ」	インフラストラクチャ	アクセスポイントを利用して通信するモードです。
「WEP使用」	WEPを有効にする	WEPによる暗号化を行います。

表4-4 ネットワーク各項目設定

4

ワイヤレスLANアクセスポイント



5. [暗号キー] ボタンをクリックしてください。暗号キーを設定するウィンドウが表示されます。各項目を下記の通りに設定します。入力したら [OK] ボタンをクリックしてください。

初期キー：“キー1 にチェックマーク”

通常使用するキーを選択します。40bit暗号化では4つまでのキーを登録できます。

暗号キー：“0x1111111111”

暗号化するキーを設定します。キーは16進数（～F）の10桁で設定します。GW-NS-110/110PX では16 進数を用いて暗号化する場合は、キーの頭に“0x（ゼロ+小文字エックス）”を付け、10桁の16進数でキーを入力します。ここでは例としてこの値を用いています。

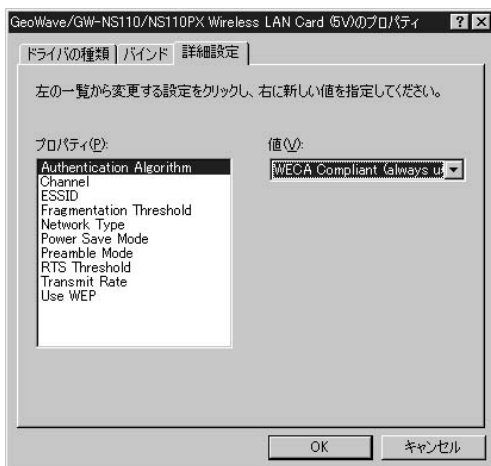


6. [変更] ボタンをクリックしてください。[終了] ボタンをクリックして、ユーティリティを終了させてください。

7. 次にデスクトップの [マイネットワーク] アイコンを右クリックして、メニューから [プロパティ] を選択してください。[ネットワークのプロパティ] が表示されます。



8. [GeoWave/GW-NS110/NS110PX Wireless LAN Card] を選択して、[プロパティ] ボタンをクリックします。GeoWave/GW NS110/NS110PX Wireless LAN Card のプロパティが開きます。
[詳細設定] ボタンをクリックして下さい。
9. [プロパティ] から [Authentication Algorithm] を選択してください。[値] が [WECA Compliant (always use Open)] になっているか確認して下さい。なっていない場合は、[WECA Compliant (always use Open)] に変更して下さい。



10. [OK] ボタンをクリックしてください。ネットワークのプロパティウィンドウが閉じます。設定を変更した場合は、再起動の要求メッセージが出ますので、[はい] ボタンをクリックして再起動してください。

以上でWEP を使用した場合の設定は完了です。コンピュータから本製品のLAN 側ポートに “ ping ” コマンドを実行する等して通信が来ているか確認してください。

詳細設定

こ

ここでは、WEBブラウザを使用して本製品の各機能の詳細な設定を行う手順を説明します。



注意

WEB ブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape またはMicrosoft Internet Explorer のバージョン4.0 以降のご使用を推奨します。

また、ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorer では「表示 (ツール)」、「インターネットオプション」、「接続」、「LAN の設定」、Netscape では「編集」、「設定」、「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン (アドレス) にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN 側ポートのIP アドレスを入力してください。

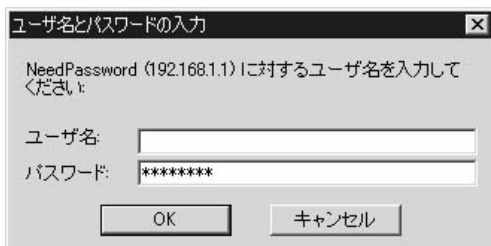
5

詳細設定

1 設定画面を開く

1. 本製品のLAN 側ネットワークに接続したコンピュータ上でWEBブラウザを起動してください。
2. WEB ブラウザのURLを入力する欄 (Netscapeでは「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」)に本製品のLAN 側ポートのIPアドレス (デフォルトでは192.168.1.1)を入力し[Enter]キーを押してください。

3. 本製品にログインするためのユーザ名とパスワードを入力するダイアログが表示されるのでユーザ名は空欄のままパスワードのみ入力してください。デフォルト設定では、パスワードは「password」です。



ユーザ名とパスワードの入力

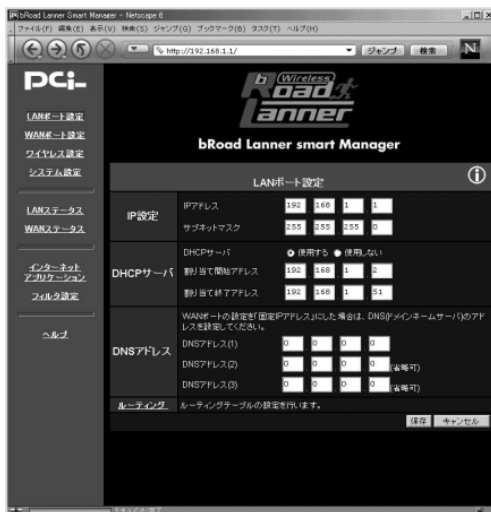
NeedPassword (192.168.1.1) に対するユーザ名を入力してください:

ユーザ名:

パスワード:

OK キャンセル

4. 本製品の設定画面が表示されます。画面左側に表示されているのが設定項目のメニューです。メニューの「ヘルプ」をクリックするとオンラインヘルプのメニューが表示されます。また、各設定画面で「i」アイコンをクリックするとその画面のオンラインヘルプが表示されます。



PCi- bRoad Lanner smart Manager

LANポート設定

IP設定

IPアドレス	192	168	1	1
サブネットマスク	255	255	255	0

DHCPサーバ

使用する 使用しない

割り当て開始アドレス	192	168	1	2
割り当て終了アドレス	192	168	1	254

DNSアドレス

DNSアドレス(1)	0	0	0	0
DNSアドレス(2)	0	0	0	0 (省略可)
DNSアドレス(3)	0	0	0	0 (省略可)

ルータ設定

ルータ設定テーブルの設定を行います。

保存 キャンセル

2 管理者パスワードの設定

本製品の管理者パスワードはデフォルトでは「password」に設定されています。本製品の使用に際してはセキュリティ上、管理者パスワードを変更することを推奨します。

管理者パスワードの変更を行うには、メニューから「システム設定」をクリックしてください。

システム設定	
パスワード	設定画面へログインするためのパスワードを設定します。 新しいパスワード <input type="password" value="*****"/> 新しいパスワードの確認 <input type="password" value="*****"/>
NAT	インターネットアクセスを共有するためにはNATを有効にする必要があります。 <input checked="" type="radio"/> NATを有効にする <input type="radio"/> NATを無効にする
TFTP	通常ファームウェアのアップデートはWindowsユーティリティから行います。TFTP(Tivial FTP)からアップデートを行う場合は以下を有効にしてください。 <input type="checkbox"/> ファームウェアのアップデートのためにTFTPを有効にする
インターネットからの設定	インターネットからの設定画面へのログインを可能にします。 <input type="checkbox"/> インターネットからの設定を許可する ポート番号 <input type="text" value="80"/> WANポートのIPアドレス 192.168.100.235
<input type="button" value="保存"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

1. パスワードの「新しいパスワード」と「新しいパスワードの確認」の欄に新しいパスワードを入力し、「保存」ボタンをクリックしてください。パスワードの最大長は半角文字で8文字です。
2. ログインダイアログが表示されるので新しいパスワードを入力してログインしなおしてください。

3 インターネット(WAN側)からの設定の許可

本製品はセキュリティ確保のため、デフォルトの状態ではインターネット(WAN側)から設定画面へのログインはできないようになっています。インターネットからの設定画面へのログインを許可するには、メニューから「システム設定」をクリックしてください。

システム設定	
パスワード	設定画面へログインするためのパスワードを設定します。 新しいパスワード <input type="password" value="*****"/> 新しいパスワードの確認 <input type="password" value="*****"/>
NAT	インターネットアクセスを共有するためにはNATを有効にする必要があります。 <input checked="" type="radio"/> NATを有効にする <input type="radio"/> NATを無効にする
TFTP	通常ファームウェアのアップデートはWindowsユーティリティから行います。TFTP(Trivial FTP)からアップデートを行う場合は以下を有効にしてください。 <input type="checkbox"/> ファームウェアのアップデートのためにTFTPを有効にする
インターネットからの設定	インターネットからの設定画面へのログインを可能にします。 <input type="checkbox"/> インターネットからの設定を許可する ポート番号 <input type="text" value="80"/>
WANポートのIPアドレス 192.168.100.235	
<input type="button" value="保存"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

「インターネットからの設定を許可する」

このチェックボックスをチェックするとインターネット(WAN側)から設定画面にログインできるようになります。

「ポート番号」

設定画面にログインするためのポート番号を変更したい場合のみ設定してください。

設定が終了したら「保存」ボタンをクリックしてください。

4 LAN ポートのIPアドレスの設定

LAN 側ポートのIP設定を変更するには、メニューから「LAN ポート設定」をクリックしてください。

LANポート設定					
IP設定	IPアドレス	192	168	1	1
	サブネットマスク	255	255	255	0
DHCPサーバ	DHCPサーバ	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない			
	割り当て開始アドレス	192	168	1	2
	割り当て終了アドレス	192	168	1	51
DNSアドレス	WANポートの設定を「固定IPアドレス」にした場合は、DNS(ドメインネームサーバ)のアドレスを設定してください。				
	DNSアドレス(1)	0	0	0	0
	DNSアドレス(2)	0	0	0	0 (省略可)
	DNSアドレス(3)	0	0	0	0 (省略可)
ルーティング	ルーティングテーブルの設定を行います。				
		保存 キャンセル			

「IP アドレス」

LAN 側ポートに設定するIP アドレスを入力してください。デフォルトでは「192.168.1.1」に設定されています。

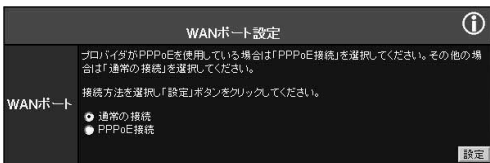
「サブネットマスク」

LAN 側ポートに設定するサブネットマスクを入力してください。デフォルトでは「255.255.255.0」に設定されています。設定を変更した場合は「保存」ボタンをクリックしてください。

5 WAN ポートの設定

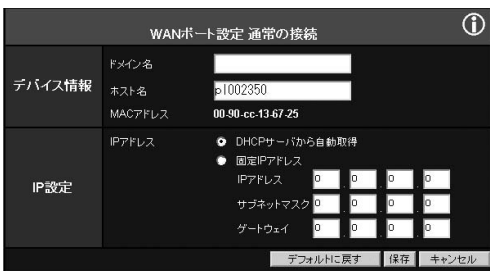
WAN 側ポートのIP 設定を変更するには、メニューから「WANポート設定」をクリックしてください。

本製品はWAN側ポートの接続方法として、通常の接続とPPPoE(PPP over Ethernet)に対応しています。プロバイダ側がPPPoEに対応している場合は「PPPoE 接続」を選択してください。それ以外の場合は「通常の接続」を選択してください。接続方法を選択したら「設定」ボタンをクリックしてください。



通常接続の設定

WAN ポート設定で「通常の接続」を選択して「設定」ボタンをクリックすると、通常接続の設定画面が表示されます。



「ホスト名」

通常はデフォルト値のまま変更する必要はありません。プロバイダによっては、ユーザの認証にホスト名が必要になる場合があります。この場合は、ここにプロバイダから指定されたホスト名を入力してください。

「ドメイン名」

プロバイダによっては、ドメイン名を指定される場合があります。この場合は、ここにプロバイダから指定されたドメイン名を入力してください。指定がない場合は、空白のままかまいません。

ここで入力したドメイン名は本製品のDHCPサーバ機能によりLAN側ポートのDHCPクライアントに対してドメインサフィックスとして設定されます。

「DHCP サーバから自動取得」

WAN 側ポートのIP 設定をプロバイダ側のDHCP サーバから自動的に取得する場合は、ここを選択してください。

「固定IP アドレス」

プロバイダから固定のIP アドレスが指定されている場合は、ここを選択し、「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」にプロバイダから指定された値を設定してください。

「IP アドレス」

WAN 側ポートに設定する、プロバイダから指定されたIP アドレスを入力してください。

「サブネットマスク」

WAN 側ポートに設定する、プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力してください。

「ゲートウェイ」

プロバイダから指定された、WAN 側ネットワークのデフォルトゲートウェイアドレスを入力してください。

設定を変更した場合は「保存」ボタンをクリックしてください。

PPPoE 接続の設定

WANポート設定で「PPPoE接続」を選択して「設定」ボタンをクリックすると、PPPoE 接続の設定画面が表示されます。

WANポート設定 PPPoE接続	
ログイン情報	ユーザ名(アカウント名) <input type="text" value="guest"/>
	パスワード <input type="password"/>
	パスワードの確認 <input type="password"/>
IP設定	IPアドレス <input type="radio"/> 自動取得 <input type="radio"/> 固定IPアドレス <input type="text" value="0"/> <input type="text" value="0"/> <input type="text" value="0"/> <input type="text" value="0"/>
	オプション 自動切断までの時間 <input type="text" value="15"/> 分 自動接続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効にする <small>自動接続を無効にした場合、接続を行う際は「WANステータス」画面の「接続」ボタンを使用してください。</small>
<input type="button" value="保存"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

「ユーザ名(アカウント名)」

プロバイダから指定されたPPPoE 接続のユーザ名(アカウント名)を入力してください。

「パスワード」

プロバイダから指定されたPPPoE 接続のパスワードを入力してください。

「パスワードの確認」

確認のためパスワードをもう一度入力してください。

「サービス名」

プロバイダによってはPPPoE 接続のサービス名が指定される場合があります。この場合は指定されたサービス名を入力してください。サービス名の指定がない場合は空白のままかまいません。

「IPアドレス」

プロバイダから固定IPアドレスの指定がない場合は「自動取得」を選択してください。PPPoE 接続の際にIP アドレスを自動取得します。プロバイダから固定のIPアドレスが指定されている場合は「固定IP アドレス」を選択し、指定されたIPアドレスを入力してください。

「自動切断までの時間」

ここで設定した時間、インターネットへの通信がない状態が続くとPPPoE 接続を自動切断します。自動切断を行わない場合は“0”を設定してください。設定できる値は0-99(分)です。

「自動接続」

「有効にする」をチェックすると、LAN ネットワークからインターネット側への通信が発生したときに自動でPPPoE 接続を行います。通常は有効にしておくことを推奨します。無効にした場合、PPPoEの接続を行うには、「WANステータス」画面の「接続」ボタンをクリックして手動で接続を行ってください。

設定を変更した場合は「保存」ボタンをクリックしてください。

PPPoE 接続の確認

PPPoE接続が正常に行えるか、確認するには、メニューから「WANステータス」を選択してください。

「接続」ボタンをクリックしてください。“PPPoE接続に成功しました”というメッセージが表示され、PPPoE接続ステータスが“ON”になれば接続は成功です。PPPoE接続が成功しない場合は、ユーザ名、パスワード等の設定に間違いがないか確認してください。また、第5章「14ステータス表示」を参照して“PPPoE 接続ログ”の内容も確認してください。

WANステータス PPPoE接続	
WANステータス	MACアドレス 00:90:cc:13:67:25
	IPアドレス 0.0.0.0
	サブネットマスク 0.0.0.0
	PPPoE接続ステータス OFF
接続ログ	<div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>
ログのクリア	
接続 切断 表示の更新	

6 ワイヤレス設定

本製品の無線LAN機能の設定はメニューの「ワイヤレス設定」で行います。

The screenshot shows the 'ワイヤレス設定' (Wireless Settings) menu. It is divided into three main sections: '一般設定' (General Settings), 'WEP設定' (WEP Settings), and 'ステーション設定' (Station Settings).
- **一般設定:** Includes '周波数ドメイン' (Frequency Domain) set to 'AR1B (Japan) domain', 'ステーション名' (Station Name) set to 'pl002850', 'ESS-ID' set to 'default', and 'チャンネル' (Channel) set to '3'.
- **WEP設定:** Offers three options: 'WEPを使用しない' (selected), '40ビット暗号化WEPを使用する' (with a 'デフォルトキー' dropdown set to '1'), and '104ビット暗号化WEPを使用する'. Below these are four key input fields (キー1-4) and a 104-bit key input field.
- **ステーション設定:** Includes a checked option 'アクセスポイントを有効にする', a 'ステーションリスト' with two entries (00:90:cc:1b:d4:8a and 00:90:cc:1b:d4:90) and a '新しいステーション' field. Under 'アクセス権の設定', there are four checkboxes for 'リスト内のステーション' and 'リスト外にないステーション', each with options for 'インターネットへのアクセスを許可する' and 'LANへのアクセスを許可する'.
Buttons for '保存' (Save) and 'キャンセル' (Cancel) are at the bottom right.

一般設定

「周波数ドメイン」

本製品の使用周波数ドメインが表示されます。本製品はここで表示されている周波数ドメイン以外で使用することはできません。

「ステーション名」

「WAN 側ポート設定」のホスト名で設定した名前が表示されます。

「ESS-ID」

ESS-ID (Extended Service Set Identifier)を設定すると、同じESS-IDを設定した無線ステーションのみ本製品にアクセスできるようになります。ESS-IDは無線通信を行うすべての機器で同じ値に設定する必要があります。ESS-IDは半角英数字で32文字以内で入力してください。

5

詳細設定

「チャンネル」

無線ネットワークで使用するチャンネル番号を入力してください。切断が頻繁に発生したり、データ転送速度が極端に遅い場合は、電波が干渉を起している可能性があります。このような場合はチャンネル番号を変更してみてください。

WEP 設定

WEP機能とは無線で通信を行う機器同士で共通の暗号キーを使用して、送受信データを暗号化しデータのセキュリティを確保するための機能です。

「WEPを使用しない」

ここをチェックするとWEP機能によるデータの暗号化を行いません。デフォルトではWEP機能は無効になっています。

「40ビット暗号化WEPを使用する」

ここをチェックすると、送受信データに対して40ビット暗号化を行うようになります。本製品をアクセスポイントとして使用するすべてのステーションで同じキーを使用して40ビット暗号化を行う必要があります。

「デフォルトキー」

デフォルトで使用する暗号キーを選択してください。選択した暗号キーを使用して送信データの暗号化を行います。

「キーテーブル」

40ビット暗号化に使用するキーデータを入力してください。キーは16進数(0-9,A-F)で2桁ずつ入力してください。無線通信を行うすべてのステーションにまったく同じキーテーブルを設定してください。

「128ビット暗号化WEPを使用する」

ここをチェックすると、送受信データに対して128ビット暗号化を行うようになります。無線通信を行うすべてのステーションで同じキーを使用して128ビット暗号化を行う必要があります。

「キー」

128ビット暗号化に使用するキーを入力してください。キーは16進数(0-9,A-F)で2桁ずつ入力してください。無線通信を行うすべてのステーションに同じキーを設定してください。

ステーション設定

本製品のアクセスポイント機能および無線ステーションのアクセス権の設定を行います。

「アクセスポイントを有効にする」

ここをチェックすると本製品の無線アクセスポイント機能が有効になります。チェックしていない場合、無線アクセスポイント機能は無効です。デフォルトで有効になっています。

「ステーションリスト」

このリストには設定した無線ステーションが表示されます。リストからステーションを削除するには、削除したいステーションを選択して「削除」ボタンをクリックしてください。

「新しいステーション」

ステーションリストにステーションを追加するには、ここに追加するステーションのMACアドレスを入力して「追加」ボタンをクリックしてください。MAC アドレスは16進数で2桁ずつ“ : ”(コロン)で区切って入力してください。

(例00 : 90 : CC : 12 : 34 : 56)

「アクセス権の設定」

本製品では、リストに設定したステーションおよびリストにないステーションそれぞれに対してアクセス権を設定することが可能です。

リスト内のステーション

ステーションリスト内に登録されているステーションに対して、LAN 側ネットワークへのアクセスおよびインターネットのアクセスの可否を設定します。

リストにないステーション

ステーションリスト内に登録されていないステーションに対して、LAN 側ネットワークへのアクセスおよびインターネットのアクセスの可否を設定します。

設定が終了したら「保存」ボタンをクリックしてください。

7 DHCPサーバ機能の設定

DHCPサーバ機能を使用すると、LAN側のローカルネットワーク上のコンピュータに自動でIP アドレスを割り当てることが可能になります。LAN側ネットワークのコンピュータにIP アドレスを手動で設定する必要がなくなります。本製品のDHCP サーバ機能の設定を行うには、メニューから「LANポート設定」をクリックしてください。

LANポート設定					
IP設定	IPアドレス	192	168	1	1
	サブネットマスク	255	255	255	0
DHCPサーバ	DHCPサーバ	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない			
	割り当て開始アドレス	192	168	1	2
	割り当て終了アドレス	192	168	1	51
DNSアドレス	WANポートの設定を「固定IPアドレス」にした場合は、DNS(ドメインネームサーバ)のアドレスを設定してください。				
	DNSアドレス(1)	192	168	100	10
	DNSアドレス(2)	192	168	100	11 (省略可)
	DNSアドレス(3)	0	0	0	0 (省略可)
ルーティング	ルーティングテーブルの設定を行います。				
保存 キャンセル					

「DHCPサーバ」

LAN側ポートのプライベートLAN上のコンピュータに対して、本製品のDHCPサーバ機能によってIP設定を自動的に割り当てる場合は、「使用する」を選択してください。DHCPサーバ機能を使用しない場合は「使用しない」を選択してください。

「割り当て開始アドレス」

DHCP サーバ機能によって、割り当てるIPアドレス範囲の開始アドレスを設定してください。本製品のLAN 側ポートのIPアドレスは割り当て範囲内に入らないように設定してください。

「割り当て終了アドレス」

DHCP サーバ機能によって、割り当てるIP アドレス範囲の終了アドレスを設定してください。

「DNS アドレス(1)～(3)」

WAN側ポートの接続にPPPoE を使用している、またはIP アドレスを自動取得にしている場合は接続時にDNS(ドメインネームサーバ)アドレスも自動取得されるので、設定する必要はありません。

WAN側ポートにプロバイダから指定された固定IP アドレスを使用している場合は、プロバイダから指定されたDNS アドレスを設定してください。

設定を変更した場合は「保存」ボタンをクリックしてください。



注意

DHCP サーバ機能を「使用しない」に設定した場合は、LAN 側ネットワーク上のすべてのコンピュータのIP アドレスを手動で設定してください。

固定IP割り当ての設定

LAN側のネットワーク上でサーバを使用する場合などに、DHCPサーバから固定のIP アドレスを割り当てさせたい場合があります。固定IPアドレスの割り当ての設定は「フィルタ設定」メニューの「コンピュータの設定」で行います。

「コンピュータ名」

固定IP アドレスを割り当てるコンピュータの任意のコンピュータ名を入力してください。コンピュータ名は半角英数字で10文字以内で入力してください。

「MACアドレス」

固定IPアドレスを割り当てるコンピュータのMACアドレスを入力してください。MACアドレスは16進数で12桁続けて入力してください。コンピュータのMACアドレスの確認方法はコンピュータまたは、ネットワークアダプタのマニュアルを参照してください。

Windows 95/98/Me であれば、winipcfg ユーティリティで確認できます。

「IPアドレス」

コンピュータに割り当てるIP アドレスを入力してください。
DHCP サーバの割り当て範囲内のアドレスを入力してください。

「セキュリティグループ」

コンピュータのセキュリティグループを選択してください。グループに参加する必要が無ければ「Everyone」を選択してください。詳しくは、第5章「12フィルタ設定」を参照してください。

設定が終了したら「追加」ボタンをクリックしてください。

8 特定アプリケーション

この機能を使用すると、ビデオ会議、インターネット電話、ネットワーク対戦ゲームなどで双方向通信、複数コネクション、TCP/UDP混在コネクション等が必要な特定のインターネットアプリケーションが使用できるようになります。特定アプリケーションの追加を行う前に、あらかじめアプリケーションで使用するプロトコル(TCPまたはUDP)とポート番号の情報を用意しておいてください。特定アプリケーションは10個まで登録可能です。特定アプリケーションの設定は「インターネットアプリケーション」メニューの「特定アプリケーション」で行います。

「エントリの追加」

各入力項目に追加するアプリケーションのデータを入力し、「追加」ボタンをクリックしてください。

「エントリの編集」

設定を変更したいエントリーを選択して、「表示の更新」ボタンをクリックしてください。選択したエントリーのデータが表示されるので設定を変更し、「更新」ボタンをクリックしてください。

「エントリの削除」

削除するエントリーを選択して、「削除」ボタンをクリックしてください。

「エントリの一覧表示」

「リスト表示」ボタンをクリックしてください。登録済みのエントリの一覧が表示されます。

各入力項目の詳細

「アプリケーション名」

アプリケーションの名前を入力してください。実際のアプリケーション名である必要はありません。任意の名前でかまいませんので、アプリケーション名は半角英数字で10文字以内で入力してください。

「有効にする」

ここをチェックするとアプリケーションが有効になります。

「送信パケット」

プロトコル

アプリケーションから送信するパケットが使用するプロトコルをTCPまたはUDPから選択してください。

ポート番号: 開始

アプリケーションから送信するパケットが使用するポート番号範囲の開始ポート番号を入力してください。アプリケーションが1つのポート番号しか使用しない場合は「開始」と「終了」の両方に同じポート番号を入力してください。

ポート番号: 終了

アプリケーションから送信するパケットが使用するポート番号範囲の終了ポート番号を入力してください。

「受信パケット」

プロトコル

アプリケーションが受信するパケットが使用するプロトコルをTCP または UDP から選択してください。

ポート番号: 開始

アプリケーションが受信するパケットが使用するポート番号範囲の開始ポート番号を入力してください。アプリケーションが1つのポート番号しか使用しない場合は「開始」と「終了」の両方に同じポート番号を入力してください。

ポート番号: 終了

アプリケーションが受信するパケットが使用するポート番号範囲の終了ポート番号を入力してください。

設定が終わったら、「インターネットアプリケーション」メニューの動作設定で「特定アプリケーション」を有効にして「保存」ボタンをクリックしてください。

9 ローカルサーバ機能

ローカルサーバ機能とはLAN側のローカルネットワーク上に接続したサーバに対してインターネット(WAN)側からアクセスできるようにする機能です。設定したローカルサーバへインターネットからアクセスするには、本製品のWAN側ポートのIPアドレスに対してアクセスしてください。ローカルサーバの設定は「インターネットアプリケーション」メニューの「ローカルサーバ」で行います。

サーバの種類	有効にする	LAN IPアドレス
DNS	<input type="checkbox"/>	0 0 0 0
Finger	<input type="checkbox"/>	0 0 0 0
FTP	<input checked="" type="checkbox"/>	192 168 1 101
Gopher	<input type="checkbox"/>	0 0 0 0
Mail (SMTP)	<input type="checkbox"/>	0 0 0 0
Mail (POP3)	<input type="checkbox"/>	0 0 0 0
News	<input type="checkbox"/>	0 0 0 0
Telnet	<input type="checkbox"/>	0 0 0 0
Web	<input checked="" type="checkbox"/>	192 168 1 100
Whois	<input type="checkbox"/>	0 0 0 0

「サーバの種類」

ローカルサーバ機能ではあらかじめ用意してある、以下の種類のサーバを公開することが可能です。ここにある以外のサーバを公開したい場合は「ユーザ設定ローカルサーバ」機能を使用してください。

サーバの種類：DNS、Finger、FTP、Gopher、Mail (SMTP)、Mail (POP3)、News、Telnet、Web、Whois

「有効にする」

公開したいサーバを選択してください。

「LAN IPアドレス」

サーバとして公開するLAN側ローカルネットワーク上のコンピュータのIPアドレスを入力してください。ローカルサーバに設定するコンピュータでは、サーバアプリケーションが正常にインストールされ、動作している必要があります。ローカルサーバに設定するコンピュータは固定IPアドレスを使用するか、「フィルタ設定」メニューの「コンピュータ」でIPアドレスを予約して、常に固定のIPアドレスが使用されるように設定することを推奨します。

設定が終了したら「保存」ボタンをクリックしてください。その後、「インターネットアプリケーション」メニューの動作設定で「ローカルサーバ」を有効にして「保存」ボタンをクリックしてください。

例：WEB サーバを公開する場合

ローカルネットワーク上のコンピュータ（IP アドレス：192.168.1.100）をWEB サーバとして公開する場合は、サーバの種類「Web」の「有効にする」をチェックし「LAN IPアドレス」にIP アドレス（192.168.1.100）を入力してください。設定したWEB サーバにインターネットからアクセスするには、WEB ブラウザのアドレス（URL）入力欄に本製品のWAN 側ポートのIP アドレスを入力してください。

10 ユーザ設定ローカルサーバ

ローカルサーバ機能で用意されていない種類のサーバを公開したい場合は、ユーザ設定ローカルサーバ機能を使用してください。

ユーザ設定ローカルサーバを設定するには、あらかじめサーバが使用するプロトコル(TCP またはUDP)とポート番号の情報を用意しておいてください。ローカルサーバ機能の詳細は、第5章「9.ローカルサーバ機能」を参照してください。ユーザ設定ローカルサーバは10個まで登録可能です。ユーザ設定ローカルサーバの設定は「インターネットアプリケーション」メニューの「ユーザ設定ローカルサーバ」で行います。

ユーザ設定ローカルサーバ	
WAN IPアドレス	WAN IPアドレス 192.168.100.235 インターネットからローカルサーバを参照するにはこのアドレスにアクセスしてください。
サーバの選択	サーバ名 <input type="text" value="https"/> 表示の更新 *表示の更新をクリックすると選択したサーバの設定が表示されます。
設定	サーバ名 <input type="text" value="https"/> <input checked="" type="checkbox"/> 有効にする IPアドレス <input type="text" value="192"/> <input type="text" value="168"/> <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="102"/> プロトコル <input type="text" value="TCP"/> 内部ポート番号 <input type="text" value="443"/> 外部ポート番号 <input type="text" value=""/> <input type="button" value="クリア"/>
<input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="更新"/> <input type="button" value="リスト表示"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

「エントリの追加」

各入力項目に追加するユーザ設定ローカルサーバのデータを入力し、「追加」ボタンをクリックしてください。

「エントリの編集」

設定を変更したいエントリーを選択して、「表示の更新」ボタンをクリックしてください。選択したエントリーのデータが表示されるので設定を変更し、「更新」ボタンをクリックしてください。

「エントリの削除」

削除するエントリーを選択して、「削除」ボタンをクリックしてください。

「エントリの一覧表示」

「リスト表示」ボタンをクリックしてください。登録済みのエントリの一覧が表示されます。

各入力項目の詳細

「サーバ名」

追加するユーザ設定ローカルサーバのサーバ名を入力してください。任意の名前がかまいません。サーバ名は半角英数字で10文字以内で入力してください。

「有効にする」

ここをチェックするとローカルサーバが有効になります。

「IPアドレス」

サーバとして公開するLAN 側ローカルネットワーク上のコンピュータのIPアドレスを入力してください。ローカルサーバに設定するコンピュータでは、サーバアプリケーションが正常にインストールされ、動作している必要があります。ローカルサーバに設定するコンピュータは固定IPアドレスを使用するか、「フィルタ設定」メニューの「コンピュータ」でIPアドレスを予約して、常に固定のIPアドレスが使用されるように設定することを推奨します。

「プロトコル」

サーバで使用するプロトコルをTCP またはUDP から選択してください。

「内部ポート番号」

ローカルサーバ上で使用するポート番号を入力してください。

「外部ポート番号」

通常は内部ポート番号と同じポート番号を入力してください。クライアント側でサーバと別のポート番号を使用する場合は、そのポート番号を入力してください。

設定が終了したら、「インターネットアプリケーション」メニューの動作設定で「ローカルサーバ」を有効にして「保存」ボタンをクリックしてください。

11 バーチャルコンピュータ機能(DMZ)

バーチャルコンピュータ機能とは、プライベートLAN上の1台のコンピュータをインターネット上からアクセス可能にする機能で、DMZ (DeMilitarized Zone) とよばれることもあります。バーチャルコンピュータを設定すると、インターネットから、本製品のWAN 側ポートのIP アドレスへ送られてくる不明なパケットはすべてバーチャルコンピュータに転送されるようになります。特定アプリケーションやローカルサーバ機能でアプリケーションやサーバが正常に動作しなかった場合はバーチャルコンピュータ機能を試してみてください。設定したバーチャルコンピュータへインターネットからアクセスするには、本製品のWAN 側ポートのIP アドレスに対してアクセスしてください。バーチャルコンピュータの設定を行うには、「インターネットアプリケーション」メニューから「バーチャルコンピュータ(DMZ)」をクリックしてください。

バーチャルコンピュータ	
設定	<input checked="" type="checkbox"/> バーチャルコンピュータを有効にする
LAN IPアドレス	バーチャルコンピュータに設定するコンピュータのIPアドレスを入力してください。
	LAN IPアドレス <input type="text" value="192"/> <input type="text" value="168"/> <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="10"/>
WAN IPアドレス	WAN IPアドレス <input type="text" value="192"/> <input type="text" value="168"/> <input type="text" value="100"/> <input type="text" value="285"/>
	インターネットからバーチャルコンピュータを参照するには、このアドレスにアクセスしてください。
<input type="button" value="保存"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	



注意

バーチャルコンピュータ機能を有効にすると、バーチャルコンピュータに設定したコンピュータに対しては一切のセキュリティが働かなくなります。バーチャルコンピュータ機能は、必要時以外は無効にしておくことを推奨します。

「バーチャルコンピュータを有効にする」

ここをチェックすると、バーチャルコンピュータ機能が使用可能となります。チェックしていない場合、バーチャルコンピュータ機能は使用できません。

「LAN IPアドレス」

バーチャルコンピュータに設定するLAN 側ローカルネットワーク上のコンピュータのIP アドレスを入力してください。バーチャルコンピュータに設定するコンピュータは固定IP アドレスを使用するか、「フィルタ設定」メニューの「コンピュータ」でIP アドレスを予約して、常に固定のIPアドレスが使用されるように設定することを推奨します。

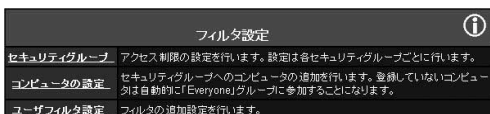
設定を変更した場合は「保存」ボタンをクリックしてください。

その後、「インターネットアプリケーション」メニューの動作設定で「バーチャルコンピュータ」を有効にして「保存」ボタンをクリックしてください。

12 フィルタ設定

本製品のフィルタ機能では、LAN側ローカルネットワーク上のユーザのWEBの参照やE-mailの使用など特定のインターネットサービスの使用制限を行うことが可能です。本製品のフィルタ設定はグループごとに行います。また、独自のフィルタを追加することも可能です。

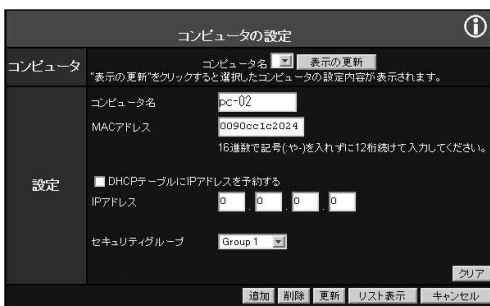
デフォルトでは、フィルタ機能は無効に設定されています。フィルタ機能の設定を行うには、メニューから「フィルタ設定」をクリックしてください。



コンピュータのグループへの登録

本製品のフィルタ機能ではグループごとにフィルタの設定を行います。このためフィルタ機能を使用するには、まずコンピュータをグループに登録する必要があります。グループには“Everyone”、“Group 1”、“Group 2”、“Group 3”、“Group 4”の5つがあります。設定を行っていないコンピュータはすべて“Everyone”グループに参加することになります。

コンピュータのグループへの登録は、「フィルタ設定」メニューの「コンピュータの設定」で行います。コンピュータは50台まで登録可能です。



「コンピュータ名」

固定IPアドレスを割り当てるコンピュータの任意のコンピュータ名を入力してください。コンピュータ名は半角英数字で10文字以内で入力してください。

「MAC アドレス」

固定IPアドレスを割り当てるコンピュータのMACアドレスを入力してください。MACアドレスは16進数で12桁続けて入力してください。コンピュータのMACアドレスの確認方法はコンピュータまたは、ネットワークアダプタのマニュアルを参照してください。Windows 95/98/Me であれば、winipcfgユーティリティで確認できます。

「IPアドレス」

コンピュータに割り当てるIP アドレスを入力してください。

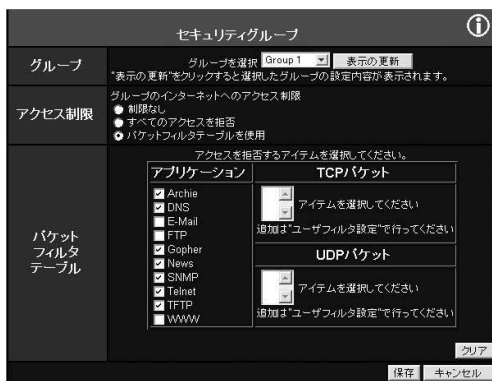
DHCPサーバの割り当て範囲内のアドレスを入力してください。「セキュリティグループ」このコンピュータが参加するセキュリティグループを選択してください。フィルタ設定の必要が無ければ「Everyone」を選択してください。

設定が終わったら「追加」ボタンをクリックしてください。

登録済みのコンピュータの設定を変更したい場合は、コンピュータを選択して「表示の更新」ボタンをクリックしてから、設定を変更し「更新」ボタンをクリックしてください。

グループごとのフィルタの設定

各グループごとのフィルタの設定は「フィルタ設定」メニューの「セキュリティグループ」で行います。



「グループを選択」

設定を行うグループを選択して、「表示の更新」ボタンをクリックしてください。

「アクセス制限」

グループに対するアクセス制限を設定します。

制限なし

アクセス制限を行いません。

すべてのアクセスを制限すべてのアクセスを禁止します。

パケットフィルタテーブルを使用

下記のパケットフィルタテーブルの設定にしたがってアクセス制限を行います。

「パケットフィルタテーブル」

アクセスを禁止したいサービスを「アプリケーション」、「TCP パケット」、「UDP パケット」から選択してください。「TCP パケット」、「UDP パケット」へのアイテムの追加は次節で説明する「ユーザフィルタ設定」で行います。

設定が終了したら「保存」ボタンをクリックしてください。

ユーザフィルタの設定

パケットフィルタテーブルにあらかじめ用意されている以外のサービスを禁止したい場合はユーザフィルタの設定を行ってください。

ユーザフィルタの設定は「フィルタ設定」メニューの「ユーザフィルタ設定」で行います。

ユーザフィルタ設定						
	フィルタ名	ポート番号		フィルタ名	ポート番号	
TCPフィルタ	1	chat	6667	6		0
	2	finger	79	7		0
	3	radio	7070	8		0
	4		0	9		0
	5		0	10		0
UDPフィルタ	1		0	6		0
	2		0	7		0
	3		0	8		0
	4		0	9		0
	5		0	10		0

保存 キャンセル

ユーザフィルタの設定は、パケットのプロトコルの種類によってTCP フィルタとUDPフィルタに分かれます。該当するプロトコルに「パケット名」と「ポート番号」を入力してください。パケット名は任意の名前で半角英数字6文字以内で入力してください。

設定が終了したら「保存」ボタンをクリックしてください。

13 ルーティングテーブル

本製品では、ルーティングテーブルにスタティックルーティング情報を20個まで追加することが可能です。



注意

新規にルーティング情報を追加するには、TCP/IP についてのより高度な知識が必要です。間違ったルーティング情報を追加すると、IP ネットワーク全体の通信が止まってしまう恐れもあります。ルーティング情報の追加を行う前に、ネットワーク管理者と相談し、追加するルーティング情報に問題が無いよう確認してください。

スタティックルーティング情報の追加を行うには、「LANポート設定」メニューから「ルーティング」をクリックしてください。

ルーティング設定	
ルーティングテーブル	エントリを選択
送信先アドレス	192.168.0.1
ネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイアドレス	192.168.1.100
インターフェース	LAN
メトリック	1

「エントリの追加」

各入力項目に追加するスタティックルーティングエントリのデータを入力し、「追加」ボタンをクリックしてください。

「エントリの編集」

設定を変更したいエントリを選択して、「表示の更新」ボタンをクリックしてください。選択したエントリのデータが表示されるので設定を変更し、「更新」ボタンをクリックしてください。

「エントリの削除」

削除するエントリを選択して、「削除」ボタンをクリックしてください。

「エントリの一覧表示」

「リスト表示」ボタンをクリックしてください。登録済みのエントリの一覧が表示されます。

各入力項目の詳細

「送信先アドレス」

送信先ネットワークのネットワークアドレスを入力してください。

「ネットマスク」

送信先ネットワークのネットマスクを入力してください。送信先がクラスCネットワークであればネットマスクは“ 255.255.255.0 ”になります。

「ゲートウェイ」

送信先ネットワークへのゲートウェイアドレスを入力してください。

「インターフェース」

インターフェースを“ LAN ”または“ WAN ”から選択してください。

「メトリック」

送信先ネットワークまでのホップ数(通過するルータの数)を入力してください。デフォルト値は“ 1 ”です。

14 ステータス表示

LAN 側ポートのステータス表示

LAN側ポートのステータス表示を行うには、メニューから「LAN ステータス」を選択してください。

LANステータス			
デバイス	ファームウェアバージョン	Version 1.0 Release 08	
	ハードウェアID	00ea005c9732	
	NAT機能	Enable	
LANポート	MACアドレス	00-90-cc-13-67-24	
	IPアドレス	192.168.1.1	
	サブネットマスク	255.255.255.0	
	DHCPサーバ	Enable	
DHCP割り当て	IPアドレス	MACアドレス	ステータス
	192.168.1.2	00-90-cc-4f-36-4c	leased
	192.168.1.30	00-90-cc-ba-2c-d6	reserved

「ファームウェアバージョン」

ファームウェアのバージョンを表示します。

「ハードウェアID」

ハードウェアIDを表示します。MACアドレスではありませんので注意してください。

「NAT」

NAT機能の状態(有効または無効)を表示します。

「MAC アドレス」

LAN側ポートのMAC アドレス(ハードウェアアドレス)を表示します。WAN側ポートのMAC アドレスとは異なります。

「IPアドレス」

LAN側ポートのIPアドレスを表示します。

「サブネットマスク」

LAN側ネットワークのサブネットマスクを表示します。

「DHCPサーバ」

DHCPサーバ機能の状態(有効または無効)を表示します。

「DHCP割り当て」

DHCPサーバのIP アドレスの割り当て状況と予約状況が表示されます。DHCPサーバ機能が無効になっている場合はこのテーブルには何も表示されません。

IP アドレス

DHCPクライアントに割り当てた、もしくは予約されているIPアドレスです。

MAC アドレス

DHCP クライアントのMAC アドレスです。

ステータス

ステータスが“ leased ”(貸し出し中)または“ reserved ”(予約済み)と表示されます。

「表示の更新」ボタン

画面表示内容を更新します。

WAN 側ポートのステータス表示

WAN側ポートのステータス表示は、WAN 側ポートの設定が「通常の接続」か「PPPoE 接続」かで異なります。WAN 側ポートのステータス表示を行うには、メニューから「WAN ステータス」を選択してください。

通常の接続の場合

WANステータス 通常の接続		
WANポート	MACアドレス	00:90:cc:13:67:25
	IPアドレス	192.168.100.235
	サブネットマスク	255.255.255.0
	ゲートウェイ	192.168.100.1
	DHCPクライアント	Enable
		再接続 表示の更新

「MAC アドレス」

WAN 側ポートのMAC アドレス(ハードウェアアドレス)を表示します。LAN 側ポートのMAC アドレスとは異なります。

「IP アドレス」

WAN 側ポートのIP アドレスを表示します。

「サブネットマスク」

WAN 側ネットワークのサブネットマスクを表示します。

「ゲートウェイ」

WAN 側ネットワークのデフォルトゲートウェイアドレスを表示します。

「DHCP クライアント」

WAN 側ポートのDHCP クライアント機能のステータス(有効または無効)を表示します。

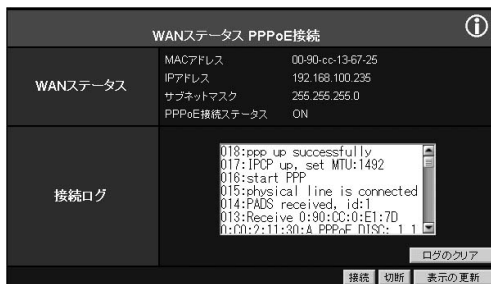
「再接続」ボタン

接続が切断された場合は、このボタンをクリックして再接続を行ってください。

「表示の更新」ボタン

画面表示内容を更新します。

PPPoE接続の場合



「MACアドレス」

WAN側ポートのMACアドレス(ハードウェアアドレス)を表示します。LAN側ポートのMACアドレスとは異なります。

「IPアドレス」

このデバイスのWAN側ポートのIPアドレスを表示します。PPPoEが接続されていない場合は“0.0.0.0”が表示されます。

「サブネットマスク」

WAN側ネットワークのサブネットマスクを表示します。PPPoEが接続されていない場合は“0.0.0.0”が表示されます。

「PPPoE接続ステータス」

現在のPPPoEの接続状況を表示します。

「接続ログ」

PPPoEの接続/切断のログを表示します。

「接続」ボタン

PPPoEの接続を行います。PPPoE接続の設定で自動接続を無効に設定している場合に、PPPoEの接続を行うには、このボタンをクリックしてください。

「切断」ボタン

PPPoEの切断を行います。

「ログのクリア」ボタン

PPPoE の接続ログを消去します。

「表示の更新」ボタン

画面表示内容を更新します。

PPPoEの接続ログに表示される主なメッセージとその意味を以下に説明します。

メッセージ	意味
Dial on Demand	自動接続機能により接続処理が開始されました。
Manual connection	「接続」ボタンにより接続処理が開始されました。
Reset physical connection	接続のための準備を開始しました。
Connecting to remote server	プロバイダ側のサーバに接続を開始しました。
Remote Server located	プロバイダ側のサーバから応答がありました。
Start PPP	プロバイダ側のサーバとPPP接続を開始しました。
PPP up successfully	PPP接続が確立しました。
Idle time-out reached	無通信状態が無通信時の自動切断に設定した時間に達しました。切断処理を開始します。
Disconnecting	接続を切断しました。
Error : Remote Server not found	プロバイダ側のサーバが応答しません。プロバイダ側のサーバかもしくはケーブルの接続に問題があります。
Error : PPP	PPP接続の確立に失敗しました。ユーザ名/パスワードに
Connection failed	問題があるか、サーバの問題です。
Error : Connection to Server lost	接続が切断されました。電源、ケーブルもしくはサーバの問題等の原因により接続が切断されました。
Error : Invalid or unknown packet type	受信したパケットは壊れているか、もしくはサポートしていないプロトコルです。

15 NAT機能の設定

メニューの「システム設定」で、NAT(ネットワークアドレス変換)機能の有効/無効の設定を行うことが可能です。

システム設定	
パスワード	設定画面へログインするためのパスワードを設定します。 新しいパスワード ***** 新しいパスワードの確認 *****
NAT	インターネットアクセスを共有するためにはNATを有効にする必要があります。 <input checked="" type="radio"/> NATを有効にする <input type="radio"/> NATを無効にする
TFTP	通常ファームウェアのアップデートはWindowsユーティリティから行います。TFTP(Trial FTP)からアップデートを行う場合は以下を有効にしてください。 <input checked="" type="checkbox"/> ファームウェアのアップデートのためにTFTPを有効にする
インターネットからの設定	インターネットからの設定画面へのログインを可能にします。 <input checked="" type="checkbox"/> インターネットからの設定を許可する ポート番号 80 WANポートのIPアドレス 192.168.100.235

「NATを有効にする」

NAT機能が有効になります。インターネットアクセスを共有する場合は、NAT機能を有効に設定してください。

「NATを無効にする」

NAT機能を無効にします。NAT 機能を無効にした場合、本製品はローカルルータとして動作します。

16 その他の設定

メニューの「システム設定」で、TFTP の設定を行うことが可能です。

システム設定	
パスワード	設定画面へログインするためのパスワードを設定します。 新しいパスワード <input type="password" value="*****"/> 新しいパスワードの確認 <input type="password" value="*****"/>
NAT	インターネットアクセスを共有するためにはNATを有効にする必要があります。 <input checked="" type="radio"/> NATを有効にする <input type="radio"/> NATを無効にする
TFTP	通常ファームウェアのアップデートはWindowsユーティリティから行います。TFTP(Trivial FTP)からアップデートを行う場合は以下を有効にしてください。 <input checked="" type="checkbox"/> ファームウェアのアップデートのためにTFTPを有効にする
インターネットからの設定	インターネットからの設定画面へのログインを可能にします。 <input type="checkbox"/> インターネットからの設定を許可する ポート番号 <input type="text" value="80"/>
WANポートのIPアドレス 192.168.100.285	
<input type="button" value="保存"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

5

詳細設定

本製品はTFTPでも、ファームウェアのアップデートを行うことが可能です。しかし、通常ファームウェアのアップデートはWindows用のユーティリティから行いますので、これを有効にする必要はありません。

トラブルシューティング

Pwr/Err LEDが点灯しない

- 本製品付属のACアダプタを使用していますか？
- ACアダプタが本製品背面の電源コネクタにしっかりと接続されていますか？
- ACアダプタはAC100Vコンセントにしっかりと接続されていますか？

WAN LEDが点灯しない

- LANケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のWANポートおよびxDSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- xDSL/ケーブルモデムの電源は入っていますか？

LAN LEDが点灯しない

- LANケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のLANポートおよびコンピュータのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- コンピュータの電源は入っていますか？

WEB設定画面が表示されない

- コンピュータのネットワークアダプタは正常に動作していますか？コンピュータまたはネットワークアダプタのマニュアルを参照してネットワーク設定を確認してください。
- コンピュータのTCP/IPの設定が間違っている可能性があります。IPを自動取得（DHCPを使用）する設定にしてください。
- 使用しているWEBブラウザで、プロキシが設定されていると設定画面が表示されません。プロキシを使用しない設定にしてください。Internet Explorerでは「表示（ツール）」、「インターネットオプション」、「接続」、Netscapeでは「編集」、「設定」、「詳細」にプロキシの設定項目があります。

コンピュータがIPアドレスを取得できていない可能性があります。WindowsではDOSプロンプトから、ipconfig コマンドを実行するとIPアドレスが表示されています。Macintoshではアップルメニューから「コントロールパネル」「TCP/IP」を開いて、IPアドレスの欄にIPが割り振られてるか確認してください。コンピュータがIPアドレスを取得できない場合は、コンピュータを再起動してください。（デフォルト設定時は192.168.1.xxx がIPアドレスとして割り当てられます。）

インターネットにアクセスできない

WAN側のIP設定が間違っている可能性があります。

プロバイダから受け取っているIP設定の資料をよく確認し、「第4章」の設定をやり直してください。

DNSサーバの設定が間違っている可能性があります。

DHCPサーバ機能を利用されている場合はプロバイダから受け取っているIP設定の資料をよく確認し、「第4章」または「5-1 DHCPサーバ」の設定をやり直してください。

DHCPサーバ機能を利用していない場合はプロバイダから受け取っているIP設定の資料をよく確認し、コンピュータのDNSサーバ設定を確認してください。

IPフィルタが設定されていませんか？

IPフィルタの設定を確認してください。

IPアドレス、またはパスワードを忘れてしまった

本製品の管理者パスワードを忘れてしまい、設定画面にログインできなくなってしまう場合は、第1章「7. 設定の初期化」を参照し、IPアドレス、またはパスワードを工場出荷時の状態に戻してください。

MACアドレスがわからない

本製品のMACアドレスは本体底面のシールに印刷されています。Node ID： 後の12桁の文字列が本製品のMACアドレスです。MACアドレスはLAN側ポートとWAN側ポートで異なりますので注意して下さい。プロバイダへMACアドレスの申請が必要な場合はWAN側ポートのMACアドレスを申請して下さい。

デフォルト設定

本

製品の工場出荷時のデフォルト設定は以下のようになっています。デフォルト設定の読み込みを行った場合も、以下の設定が読み込まれます。

項目	設定内容	
LAN側	IPアドレス	192.168.1.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
WAN側	接続方法	通常の接続
	DHCPクライアント	有効
	IPアドレス	0.0.0.0
	サブネットマスク	0.0.0.0
	デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
ワイヤレス	アクセスポイント機能	有効
	ESS-ID	default
	チャンネル	3
	WEP	使用しない
	アクセス制限	なし
DHCPサーバ	DHCPサーバ	有効
	DHCP IP割り当て範囲	192.168.1.2~128
	DNSアドレス (1)	0.0.0.0
	DNSアドレス (2)	0.0.0.0
	DNSアドレス (3)	0.0.0.0
パスワード	password	
インターネットからの設定	無効	
ドメイン名	未設定	
ホスト名	本製品裏面のサーバ名	
NAT	有効	
ローカルサーバ	なし	
バーチャルコンピュータ	なし	
スタティックルーティング	なし	
フィルタ設定	なし	

仕様

本

製品の工場出荷時のデフォルト設定は以下のようになっています。デフォルト設定の読み込みを行った場合も、以下の設定が読み込まれます。

C**仕様**

無線部

< 準拠する標準 >

IEEE 802.11/802.11b、ARIB STD-33A/STD-T66

< 伝送速度 >

11/5.5/2/1Mbps（オートセンシング）

< 周波数帯 >

2.4 ~ 2.497GHz

< 通信距離 >

240m（屋内使用時、見通し距離）

環境により上記距離を満たさない場合があります。

< アンテナタイプ >

ダイバシティアンテナ

有線部

< 準拠する標準 >

LAN 側IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX

WAN 側IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX

< 伝送速度 >

LAN 側10/100Mbps

WAN 側10/100Mbps

< ポート >

LAN 側10BASE-T/100BASE-TX RJ-45 × 3 ポート

WAN 側10BASE-T/100BASE-TX RJ-45 × 1 ポート

<ネットワークケーブル>

10BASE-T カテゴリ3 以上ツイストペアケーブル (100m)

100BASE-TX カテゴリ5 以上ツイストペアケーブル (100m)

共通

<LED>

Pwr/Err、WAN、LAN、Wireless

<入力電源>

DC 12V、800mA

<消費電力>

最大7.2W

<外形寸法 (W × D × H)>

240 × 120 × 35mm

<重量 (本体のみ)>

460g

<環境>

動作温度0 ~ 40

動作湿度35 ~ 85 %

<EMI>

VCCI Class B、FCC Class B、CE

ユーザー登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。ユーザー登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザーサポートをお受けになるにはお客様のユーザー登録が必要となります。ぜひユーザー登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザー登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。ユーザー登録を行って戴いたお客様の中から毎月抽選でプレゼントを差し上げております。

<http://www.planex.co.jp/user/user.htm>

質問表

技術的なご質問は、この2ページをコピーして必要事項をご記入の上、下記FAX番号へお送りください。

ブラネックスコミュニケーションズ テクニカルサポート担当 行

FAX : 03-5614-1018

送信日 : _____

会社名			
部署名			
名前			
電 話		F A X	
E-MAIL			

製品名 Product name	3ポート ワイヤレスブロードバンド ルータ
型番 Product No.	BLW-03
製造番号 Serial No.	

ご使用のコンピュータについて

メーカー	
型番	

ソフトウェア

ネットワーク OS	バージョン
OS	バージョン

ご使用のプロバイダについて

プロバイダ名	
サービス名	

保証規定

プラネックスコミュニケーションズ(株)は、本製品についてご購入日より本保証書に記載の保証期間を設けております。

本製品付属の取扱説明書などに従った正常な使用状態の下で、万一保証期間内に故障・不具合が発生した場合、本保証規定に基づき無償修理・交換対応を行います。

ただし、次のような場合には保証期間内であっても有償修理となります。

1. 本保証書がない場合。
2. 本保証書に、ご購入日・お名前・ご購入代理店印の記入がない場合、または字句が改ざんされている場合。
3. 取扱上の誤り、または不当な改造や修理を原因とする故障及び損傷。
4. ご購入後の輸送・移動・落下による故障及び損傷。
5. 火災、地震、落雷、風水害、ガス害、塩害、異常電圧およびその他の天変地異など、外部に原因がある故障および損傷。
6. 他の機器との接続に起因する故障・損傷。

初期不良交換

保証期間発生日より1ヶ月以内の故障に関しては、初期不良交換サービスの対象となります。

お客様より初期不良である旨申告していただき、弊社がその申告現象を確認した場合に限り、初期不良品として新品と交換いたします。

ただし、検査の結果、動作環境や相性を起因とする不具合であった場合には、初期不良交換サービス対象とはなりません。また、当サービスをご利用頂くには、お買い上げ商品の全ての付属品が揃っていることが条件になります。

初期不良・修理の手順(センドバック方式)

弊社は、センドバック方式による初期不良・修理対応を行っております。

1. 本製品に故障・不具合が発生した場合、下記サポートセンターまでご連絡ください。受付番号を発行いたします。
プラネックスコミュニケーションズ(株)
サポートセンター フリーダイヤル 0120-415977
2. 受付番号を明記の上、本製品及び保証書を弊社リペアセンターまでお送りください。
(誠に勝手ながら、修理品発送の際の送料はお客様のご負担にてお願いいたします。)
3. 当該初期不良・修理品の到着後、初期不良の場合は交換品、修理の場合は修理完了品をお送りいたします。

免責事項

- ・お客様及び第三者の故意または過失と認められる本製品の故障・不具合の発生につきましては、弊社では一切責任を負いません。
- ・本製品の使用及び不具合の発生によって、二次的に発生した損害(事業の中断及び事業利益の損失、記憶装置の内容の変化、消失等)につきましては、弊社では一切責任を負いません。
- ・本製品に装着することにより他の機器に生じた故障・損傷について、弊社では本製品以外についての修理費等は一切保証致しません。

本保証書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.

保証書

保証期間 Warranty	西暦 年 月 日より 1 年間		
製品名 Product Name	3ポート ワイヤレスブロードバンド ルータ		
型番 Product No.	BLW-03	製造番号 Serial No.	

個人使用 法人使用 (チェックしてください。) 個人でご使用の場合には、個人名、および住所以降の欄にのみご記入ください。			
フリガナ			
会社名			
部署名			
フリガナ			
お名前			
フリガナ			
ご住所	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 都道 府県		
TEL		FAX	
メールアドレス			
ご購入 代理店名 ・所在地			

技術的なご質問、バージョンアップ等のお問い合わせは
お気軽に下記へご連絡ください。
なお弊社ホームページにてユーザー登録を行って
いただいていない場合には、
一切のサポートは受けられませんのでご注意ください。

フリーダイヤル：0120-415977

受付時間：月曜日～金曜日（祭日は除く）

10:00～12:00・13:00～17:00

FAX：03-5614-1018

ユーザー登録：<http://www.planex.co.jp/user/user.htm>

ご質問の受付やドライバのアップデートを
下記Webサイトで行っておりますのでご利用ください。

<http://www.planex.co.jp/>

E-MAIL:info-planex@planex.co.jp

プラネックスコミュニケーションズ株式会社